

科目コード	科目名	単位数
0311	国文学史Ⅰ	4単位

教材コード 000087

教材名 『日本文学の歴史』 ※国文学史Ⅱと同じ教材です。

著者名等 高木 市之助

■教材の概要

本教材は、他の文学史にみられるような別章を設けて時代を概観するという型をとらず、時代と文学との交渉を本文の叙述に織り込むという特徴を有している。つまり、文学の実質に浸透した時代性を重要視している。また、各時代ごとに年表と文学系統を図式的に示し、次いで本文、解説と4部立てとし、理解を簡明にする構成である。

古代から中世の文学を比較し、文学の流動的展開、それぞれの文学の傾向と特色を理解するのに適している。

■学習計画のポイント

ページ1～62

1～37ページ

古代前期の文学の特色と流れを把握する。『古事記』と『日本書紀』を、巻数・編者・成立年代・内容・文体・特色などについて比較整理する。万葉時代の歌風の変遷と、四期に分けた代表歌人の特色を関連させて整理する。

38～62ページ

漢詩文の流行した時代的背景を把握する。『古今集』の特徴を要約・把握する。古代後期文学の変動期に和歌が再び台頭した事情と、歌人の活動についてまとめる。「歌謡」の歴史や種類について把握する。

ページ62～169

62～100ページ

物語の発生と展開について理解する。日記文学の特色を把握する。『源氏物語』と『枕草子』の本質等を比較する。「歴史物語」の特色について理解を深める。「説話」の歴史と種類について把握する。

101～169ページ

『新古今和歌集』『平家物語』『御伽草子』などの特色を理解する。『方丈記』『徒然草』の二大随筆を比較し、鴨長明、吉田兼好らの隠者文学の性格を理解する。連歌という文芸様式、謡由・狂言の劇文学としての特色を把握する。

■学習上の留意点

各時代ごとの年表、系統表、本文、解説（作家、作品、その他の事項）など全体をよく読むこと。

■参考文献

『必携 新国語国文学要覧』 水島義治著（おうふう社）

科目コード	科目名	単位数
0312	国文学史Ⅱ	4単位

教材コード 000087

教材名 『日本文学の歴史』 ※国文学史Ⅰと同じ教材です。

著者名等 高木 市之助

■教材の概要

「国文学史Ⅱ」は、日本文学史のうち、近世、近代、現代を扱っています。本教材は各ジャンル別に記述する方法がとられているため、年代の流れにそって、全ジャンルを一括して把握するとより効果的な学習ができるように工夫されています。また作家別、作品別の注が豊富に収載されていますで、作品の梗概や文体を知るに好都合な筈です。文学史という科目の性格上、時代の流れとして知識を得ると共に、実際に作品を読むことが必要になります。

■学習計画のポイント

ページ 170 ～ 299

170 ～ 228 ページ

近世の和歌、狂歌、漢詩文、歌謡、俳諧、川柳の歴史が記されています。特にこの項では近世的なジャンルが何か、どの作家によってどのような作品が描かれたのか又、その概要を理解してください。

229 ～ 299 ページ

近世の小説・浄瑠璃が扱われています。近世文学の中で最も近世的な性格をもっているジャンルです。時代性と庶民文化との関係に留意しつつ、歌舞伎の脚本の項をも含め、主要作者、作品の用例を読みこみながらその全体の概要を把握してください。

ページ 300 ～ 463

300 ～ 341 ページ

近代の短歌、俳句、詩が扱われています。結社ごとに、あるいは作品傾向ごとに把握すると理解しやすいでしょう。歌集や詩集にはそれぞれ独立した文学作品としての短歌や詩が集められたものです。結社、作者の時代との関わりに留意しつつ、作品を実際に読みこんでください。

341 ～ 463 ページ

近代の小説、戯曲が主に扱われています。啓蒙期から政治小説、硯友社、文学界といった流れの中で主要作家の人と作品傾向を把握してください。作者、作品とも扱われている量が多く、範囲も広く大変ですが、用例としてあげられている作品を読めば理解もスムーズにいきます。

■学習上の留意点

各ジャンルから作者及び作品の特色を問う問題が中心です。

■参考文献

教材を読みこむとともに、文庫本等で、近世～近現代における文学作品の一つでも多く読むことが肝要です。

科目コード	科目名	単位数
0314	国語学講義	4単位

教材コード 000088

教材名 国語学講義

著者名等 小久保 崇明

■教材の概要

国語学講義（国語史）とは、日本語の歴史をいう。本教材は、その日本語の歴史を明らかにするために記述した教材である。本来なら上代から現代までの日本語の変遷を説くことが望まれるが、都合により、上代から中世前期すなわち鎌倉時代までの日本語の歴史の概要を時代的に示した。なお、学習の便を考え、各時代とも、概説・文字表記・文章文体・音韻・語彙・文法・敬語・方言に分けて記述してみた。

■学習計画のポイント

ページ 1 ～ 211

1 ～ 99 ページ

序で国語史の定義とその研究の目的を示している。また、日本語の系統についても記しているので、その概要を理解しておくこと。第2章では、特に上代特殊仮名遣いについて理解を深めておくように。

101 ～ 211 ページ

奈良時代の国語と平安時代の国語との差異の概要を理解すること。特に敬語について、正確な知識を身につけるように。

ページ 213 ～ 415

213 ～ 307 ページ

平安時代の国語と院政鎌倉時代の国語との差異の概要を理解すること。係り結びの変遷について考えてみることも大切である。

311 ～ 415 ページ

主要な作品を読んで、その中から、その時代の国語史上重要な現象を見出すよう努めること。

■学習上の留意点

- ① 学習計画のポイントで示したことを、よく記憶しておくこと。
- ② 重要な事項は、ゴシックで組んである。それらを理解しておくこと。

■参考文献

教材の参考文献目録を参照。

『日本語文法大辞典』山口明穂・秋本守英編（明治書院）

科目コード	科目名	単位数
0321	国文学概論	4単位

教材コード 000089

教材名 国文学概論

著者名等 高木 市之助 監修

■教材の概要

古代から近代にいたるまでの日本文学の主要なジャンルについて、それぞれの文学形態の特質や発生・展開の様相を概観している。各分野とも執筆された時点からかなり時間が経過しているため、脚注その他に掲出された参考書等に入手困難なものがあり、その後の新しい研究成果を追加すべき点もある。この教材をステップとして、自分なりの「国文学」に対する考え方や興味・関心を持てるように各自で問題点を発見し、整理、発展させていくことが望まれる。

■学習計画のポイント

ページ 1 ～ 140 「古代和歌」～「軍記物語」

1 ～ 78 ページ

「古代和歌」と「説話文学」の二分野で構成されており、和歌の諸形態と短歌形式の形成過程の問題、説話文学における「説話性」の問題がそれぞれ中心的課題となっている。記紀歌謡・和歌・物語と説話との関連性を考えることも重要。

79 ～ 140 ページ

「物語文学」と「軍記物語」の二分野からなる。物語文学の概念、種類、系統の問題、軍記物語の発生と史的展開、その特性の問題などが中心的課題である。特に「語り」「語りもの」としての軍記物語の特質を考えることが必要である。

ページ 3 ～ 286 「連歌」～「近代韻文」

3 ～ 135 ページ

「連歌」「俳諧」と「謡曲」「狂言」「浄瑠璃」「歌舞伎狂言」という中世から近世に及ぶ韻文と演劇の諸分野の展開が中心的課題である。それぞれの文芸形式と特質について、具体的な作品に即して理解を深めることが要求されよう。

139 ～ 286 ページ

「近代小説」と「近代韻文」の二分野で構成されている。小説、詩（短歌・俳句の短詩形を含む）における「近代性」とは何か、が重要な課題である。

■学習上の留意点

- ① 教材を要約するだけでなく、一つでも多くの原文を読むことが望ましい。
- ② 関連する研究書を読み、研究の動向、現状などにも留意するように努力してほしい。
- ③ 参考書の解説、見解はできるだけ批判的にとらえる姿勢も身につけるようにする。
- ④ 答えは、くれぐれも教材の単なる要約にならないように注意してほしい。

■参考文献

- ※『新日本古典文学大系』（岩波書店）所収の作品、解題、参考文献
- ※『別冊国文学 新・古典文学研究必携』（学燈社）などの『必携』シリーズ
- ※『国文学 解釈と教材の研究』（学燈社）、『国文学 解釈と鑑賞』（至文堂）などの国文学関係の雑誌により最新の研究情報を知ることができる。

科目コード	科目名	単位数
0331	国文学講義Ⅰ（上代）	4単位

教材コード 000090

教材名 国文学講義Ⅰ（上代）

著者名等 竹内 金治郎

■教材の概要

教材は、上代文学の中の歌謡と説話を主としている。歌謡は古事記、日本書紀と万葉集に収められているものを取り上げている。記紀歌謡では約90首についての表現の技巧面、とりわけ修辞法の見地に立って、形式的類型的な言及がなされている。万葉集では、「雑歌」「相聞」「挽歌」という万葉集の三大部位の外に、「羈旅歌」について考察している。説話では古事記、日本書紀ならびに風土記に収められた神話や伝説および説話を扱っている。説話では農耕説話に重点をおいて述べている。

■学習計画のポイント

ページ 1 ～ 232

1 ～ 109 ページ

歌謡の概説によって、上代歌謡のあらましと、その特色（形態内容など）を理解するようにする。また各項ごとの修辞法を把握する。脚注の口語訳などを参考にし、その歌謡の意味、作歌事情などについても理解する。

111 ～ 232 ページ

万葉集中の相聞歌について、その特色を理解する。相聞歌の名義、編纂上の問題、表現の三様式などについても理解するようにする。また例に挙げてある相聞歌の意味、作歌背景などについても考えておく。

ページ 233 ～ 496

233 ～ 383 ページ

万葉集の羈旅歌の特色について把握しておく。「羈旅」の意義、羈旅歌のありかた（位置、形、数）、内容について把握する。内容上より六種に分類した羈旅歌の意味やその特徴についても理解しておく。

385 ～ 496 ページ

上代文学における農耕を背景とする説話について、その特色、説話の意義、類型、農耕習俗に関しても考えておく。

■学習上の留意点

例に挙げた歌謡や歌などについて、その意味内容、文学性、特色などについても理解するよう努力する。また文学はことばによる表現なので、ひとつひとつの語を大切にし、一語一語の品詞などについてもおろそかにしないよう、ことばの芸術としての文学を諸方面から考えるよう心掛けるようにする。

■参考文献

『万葉集 新潮古典文学アルバム2』森淳司著（新潮社）

『万葉集研究入門ハンドブック（第2版）』森淳司編（雄山閣）

科目コード	科目名	単位数
0334	国文学講義Ⅲ（中世）	4単位

教材コード 000091／000370

教材名 国文学講義Ⅲ（中世）／『源氏物語の世界』 ※2冊組み

著者名等 岸上 慎二／日向 一雅

■教材の概要

本教材は単位の4に対応すべく、四つの柱から成っている。第1単位が『枕草子』、第2単位が『新古今和歌集』、第3単位が『能・狂言』であり、第4単位の『源氏物語』を市販のテキストによっている。これらの四つの柱は、中世というよりは、平安朝（古代後期）と中世を代表する基本のジャンルを考えて構えられたのである。日記・随筆的な『枕草子』、勅撰和歌集と和歌への目配りをし『新古今和歌集』、演劇と文学を考える『能・狂言』、物語文学の頂点である『源氏物語』がそれだ。

■学習計画のポイント

『国文学講義Ⅲ（中世）』

ページ1～187

1～84ページ

『枕草子』を概要として述べた部分から、その内実へと深化するように、教材は構成されている。多くの章段を考えることが教材では行いにくかったので、この分析を手掛りに、作品をじっくりと読むことが期待される。

85～187ページ

『新古今和歌集』は、勅撰和歌集の中でも、特異な作品だと言える。だが、その特異さは、歌集の編纂を徹底的に考えることによって生まれている。『新古今』を手掛りとして八代集へ目を広げることが必要であろう。

ページ189～290

189～290ページ

文学としての『能・狂言』を考えているのだ、ということを忘れないようにする。教材は概要から作品分析へと配されているように、その分析が主目標だということを忘れないこと。『隅田川』以外の作品もよく読んでほしい。

『源氏物語の世界』

テキストは、物語の概略を追う形になっているので、自分なりにポイントを見定めて原文を読むように発展させてほしい。そして、テキストに書かれてあることが相互に、どのように関連するのかも考えるべき眼目となる。

■学習上の留意点

- ① 毎回、試験範囲のポイントが異なっているので注意すること。
- ② 教材を手掛りとして、さらに新しい情報に目配りするように心がけること。
- ③ 出題の意図を考えること。
- ④ 課題に対して、発展的に考え、解答することが望まれる。

■参考文献

研究状況は、常に発展している。

※『国文学 解釈と教材の研究』、『同 解釈と鑑賞』（至文堂）等の市販の雑誌に目配りすること。

※『別冊国文学』の必携シリーズ（学燈社）も手掛りになる。

科目コード	科目名	単位数
0336	国文学講義Ⅳ（近世）	4単位

教材コード 000093

教材名 国文学講義Ⅳ（近世）

著者名等 永井 啓夫・大澤 美夫・井草 利夫

■教材の概要

近世文学とは、ほぼ江戸時代に行なわれた日本の文学をさすが、教材はその中でも最も特色を持っていると思われる俳諧・小説・歌舞伎・浄瑠璃の四つをとり上げた。小説は種類や分量が多いので、前・後期と二つに分け、歌舞伎と浄瑠璃はお互いに関連性が強いので一つにまとめた。これらの文学は高校までは教材に大きく取上げられることは少ないが（芭蕉・西鶴は別として）、いずれも世界に誇るものの出来る日本独自の作品を有していることを忘れてはならない。

■学習計画のポイント

ページ 1 ～ 175

1 ～ 75 ページ

教材は芭蕉以前と特に芭蕉について精しく叙述してあるが、芭蕉については教材以外の本文についても各種参考文献を利用して一応読んでおくことが必要。また、芭蕉以後の俳諧（蕪村・一茶その他）についても理解を進めた方がよい。

77 ～ 175 ページ

前期の小説は上方において盛んであったが、何と云っても西鶴の浮世草子が重要である。教材以外の西鶴の作品も出来るだけ読んでおくこと。また、仮名草子は文学史上における位置付けなどに留意しながら、教材に記載されている諸作品を读了しておくことが望ましい。

ページ 177 ～ 356

177 ～ 260 ページ

後期的小説では種類が多いので、それぞれの特色とどうして盛んになったかをよく理解しておきたい。また教材に本文が紹介されている有名作品は、全体を通して一度読んでおくと、その面白さがいっそう深く理解出来るであろう。

261 ～ 356 ページ

浄瑠璃と歌舞伎とは教科書としての必要上二つに分けて叙述してあるが、両者は近松門左衛門以後各時期にわたって関連性が強いので、それを十分考慮して学習すること。事情が許せば、一度歌舞伎や文楽を観ておくと理解が倍加される。

■学習上の留意点

- ① 芭蕉の俳諧の変遷と各時期の俳風の特色。
- ② 西鶴の浮世草子を発表年代と種類に分けて考察すること。
- ③ 各種類の小説の特色と代表作・作者について学習する。
- ④ 浄瑠璃・歌舞伎の代表的作者と代表作について。

■参考文献

- 『新編日本古典文学全集 70, 71 松尾芭蕉集①②』（小学館）
 『新編日本古典文学全集 64 仮名草子集』（小学館）
 『新日本古典文学大系 74 仮名草子集』（岩波書店）
 『新日本古典文学大系 75 仮名草子集』（岩波書店）
 『新編日本古典文学全集 66 ～ 69 井原西鶴集①～④』（小学館）
 ※『鑑賞日本古典文学 第35巻 秋成・馬琴』（角川書店）
 ※『鑑賞日本古典文学 第30巻 浄瑠璃・歌舞伎』（角川書店）

科目コード	科 目 名	単位数
0338	国文学講義Ⅴ（近代）	4 単位

教材コード 000094

教 材 名 『現代日本文学のながれ』

(学習指導書別冊)

著 者 名 等 金沢近代文芸研究会編

■教材の概要

幕末から開化期・明治十年代・明治二十年代～大正期までの文学結社や文芸思潮がそれぞれの作家と作品に言及しながら解説されています。

■学習計画のポイント

ページ 7 ～ 84

第一章～第六章までが第一分冊です。

第一章 明治十年代・政治小説 第二章 「小説神髓」の時代 第三章 明治二十年代の文学

第四章 正岡子規の革新 第五章 自然主義文学－藤村と花袋－ 第六章 漱石と鴎外

ページ 85 ～ 148

第七章～第十一章までが第二分冊です。

第七章 荷風と潤一郎 第八章 白樺派の文学 第九章 芥川と「私小説」 第十章 「近代詩」の確立

第十一章 新感覚派と横光利一

■学習上の留意点

学習の留意点は別冊の『学習指導書』を参考にしてください。

■参考文献

『学習指導書』に記してありますので、参照してください。

科目コード	科目名	単位数
0339	国文学講義Ⅵ（現代）	4 単位

教材コード 000361

教材名 『現代日本文学史』 (学習指導書別冊)

著者名等 大久保 典夫・高橋 春雄・保昌 正夫・薬師寺 章明

■教材の概要

本教材は、日本の近代から現代に至る文学的特性と作家群像を把握するように執筆されている。それぞれの章立てが概説と具体的作品例から成り立っている。作品の主題や問題点の理解にはそれぞれの作品内容の概要を把握しておかないと不可能なので、用例を丹念に読み込み文学史的意義や特色を把握していただきたい。そのためには簡単な文学辞典などの参考書を座右に置いてほしい。

■学習計画のポイント

ページ 63 ～ 190

「昭和文学の出発」から「昭和 50 年の文学」までが範囲です。10 年単位の時代状況と文学との関わりが中心になっています。別冊の『学習指導書』を参考にしてください。

ページ 193 ～ 296

各ジャンル別の記述でまとめられています。
別冊の『学習指導書』を参考にしてください。

■学習上の留意点

作品名を覚えるのではなく、作品を実際に一つでも読み終えるようにしてください。

■参考文献

特になし。

科目コード	科 目 名	単位数
0351	国語学概論	4 単位

教材コード 000412

教 材 名 『現代日本語学入門』

著 者 名 等 荻野 綱男

■教材の概要

「国語学」は国語つまり日本語に関する研究の全体である。世界の言語を対象にする「言語学」のうち、特に日本語を対象とするものである。したがって、研究方法などは言語学に通じるものがある。

国語学は、その中の研究領域として、非常に多彩な内容を含んでいる。また、周辺領域とも密接な関連を持っている。学生諸君は、この教材を通じて、国語学とその周辺分野の幅広い側面について知識を持ってほしい。これは、その後のさまざまな研究の基礎となるものであるから、基礎力養成のために、どの分野も好き嫌いをいわず、食らいつくつもりで教材にぶつかってほしい。

この教材は、そのようなアプローチに適したものになっており、例を多く挙げられ、全体としてわかりやすく書かれている。ぜひ、全体を理解するよう、努力してほしい。

なお、この教材では、日本語の歴史的な変遷や古語に関する記述はほとんど省略されている。こちらの方面を別の書物で補っておくことが望ましい。

■学習計画のポイント

ページ 1 ～ 111

（日本語とは）国語（日本語）を広い視野からとらえる考え方を身に付けてほしい。日本語は単独で存在するものではなく、世界の諸言語の一つであり、その研究法としての国語学もまた周辺の諸学問と関連している。そういう見方を理解することが重要である。

（音声と音韻）音声学と音韻学の違いは基本概念の一つである。二つの見方をしっかり区別してほしい。その上で、日本語が音声面でどういう特徴を持っているかを全体として理解することが必要である。音声学は、本だけで理解することは困難である。身の回りで使われていることば（また自分のことば）を観察しながら実際の音声と教科書の記述を対応させることが重要である。音韻論は、ページ数の関係で簡略な記述しかないが、大切な概念・考え方が示されているところなので、無視できない。

（語彙）語彙とは何か、どういう特徴があるのか、それを出自（語種）とともに理解し、たくさんの要素からなるものを全体として把握するということがどういふことが、巨視的に見る見方を身につけてほしい。図表がたくさん出てくるが、それぞれが何を物語っているか、じっくり考えて読み込むことが必要である。

（意味）語の意味はきわめて多様な側面を持つ。教科書には具体例が多く挙がっているが、それらの語の意味を自分で考えて確認しながら読み進めていくことが大事である。さっと読めば読めてしますが、それでは内容が身に付かない。

（文法）文法のとらえ方は、日本語のどのような面が明らかになるのかを身近な例で確認しておく必要がある。文法カテゴリーのところは、今までに学んだことのない概念が出てくるが、現在の国語学の常識なので、個々の専門用語の意味を確認しながら理解してほしい。

（文章と文体）日本語のしくみの中ではやや周辺の話題を扱う。文を越える大きさの文章を対象にすると、どんな見方・考え方ができるのかを理解してほしい。この章で扱われる問題が「文を扱う（文のサイズの）文法」では扱えないことが理解できれば十分である。

ページ 112 ～ 246

（文字と表記）日本語の文字の特色を踏まえるだけでなく、そのような特色があるからこそ、日本語を書き表すときにいろいろ考慮しなければならないという表記の多様性に目を向けてほしい。特に、漢字は複雑な文字体系である。教科書では、さまざまな観点から漢字を分類しているので、そのような複眼的な見方を身に付けてほしい。

（敬語）敬語は、単に人を敬うものではない。その動きは実に複雑である。そのような複雑な動きの総体として日本語の敬語が存在しているということを理解することが大事である。敬語の体系（言語体系）とともに、敬語の使い方の体系（行動体系）があるので、敬語を両面からとらえるような見方を理解してほしい。

（方言と共通語）なぜ日本語の中に方言があるのか、これから方言はどうなっていくのか、大きな流れの中で方言について考えてほしい。東京から距離のある地域に住んでいる人は、自分の身近な話し言葉としての方言を、自分で再発見するつもりで観察することも意義がある。方言と共通語を分けてとらえるだけでなく、両者にまたがる問題がいろいろある。教科書ではそのような側面にも配慮しているため、自分の語感などと照らし合わせながら読み進めてほしい。

（日本語教育）国語教育との違いはぜひ理解してほしい。日本語狂句は、初めての人には理解しにくい面があるかもしれないが、自分が受けた英語教育などと対比しながら読み進めると、分野の特徴や考え方など、納得が行くものと思う。日本語教育からとらえた日本語の特徴は、日本語を客観的に見ることにつながるので、「自分が使っている言語」（主観的なとらえ方）という見方と違っている点を理解することがポイントである。

（社会言語学）マクロな社会言語学とミクロな社会言語学がある。教科書ではミクロ（個人の言語行動という側面）が中心に記述してある。この章（および敬語）以外はことばのしくみ（言語体系）という観点から見ることができが、ここでは言語行動、すなわちことばを使うという観点から見ることになる。

（コンピュータ言語）普段から身の回りの電子機器（電子辞書やケータイ、パソコン）に興味を持って、実際に使うことが大事である。その上で、この章を読むと、身の回りに考えてみるとよい。

（心理言語学）言語習得は、日本語学よりも心理言語学分野で研究されることが多い。母語の習得と第二言語の習得がどのように違うのか、自分の英語学習の経験などとも照らし合わせながら教科書を理解するとよい。言語習得以外にも、人間の心理と関連する日本語研究がいろいろあるため、その方面にも興味を広げてほしい。

（対照言語学）日本語を知るための一つのプロセスとして、外国語と比べて違っているところを意識することがある。対照言語学はそういう分野なので、英語を始めとする外国語を意識して、それらと日本語の違いを考えよう。外国語の知識がないと、対照言語学を理解するのはかなりむずかしい。

（文化人類学）ことばは文化と関連する。文化を扱う学問分野としての文化人類学の中には、ことばの研究と深く関わる分野がある。視野を広げて、「何でも見てやろう」的な態度で世界を眺め、その中で日本語の問題に考えをめぐらせるのがよい。

■学習上の留意点

どの部分も大事であるから、全体を理解してほしい。分野ごとに考え方の道筋がかなり異なる面もあるから、それぞれの分野ごとに発想を切り替えるつもりで（それぞれの章ごとに新たな気持ちで）学習するとよい。書いてあることの理解のためには、日常見聞きするものを例にして考え、自分なりに説明するような心がけが必要である。

■参考文献

教材の各章末に参考文献が挙げられているので、それを見てほしい。

もう少し深く学びたい人には、各種講座ものが便利である。『講座 日本語と日本語教育 全16巻』（明治書院）、『朝倉日本語講座 全10巻』（北原保雄監修（朝倉書店））、※『講座 日本語学 全12巻』（明治書院）

また、日本語の歴史的な変遷については、『日本語の歴史』山口仲美著（岩波新書）がわかりやすい。

日本語教育から文化人類学までは、それぞれ学問領域が確立しているので、ぜひ、それぞれの入門書を読み進めることをお勧めする。

科目コード	科目名	単位数
0355	国文法	4単位

教材コード 000101

教材名 『日本語文法』

(学習指導書別冊)

著者名等 岩淵 匡

■教材の概要

本教材は、日本語の文法を体系的な面からその基本を概説している。文法は、その名称のごとく、文を構成している法則・きまりを明らかにするもので、本教材は、品詞論を基礎に構文論を主眼にまとめている。ここに従来の日本語文法の概説書との違いがあり、しかも現代語と古典語との両面から構文を考えるようにまとめたところに特徴がある。

■学習計画のポイント

ページ 11 ～ 100

11 ～ 20 ページ

「序説」では、文法の捉え方と内外の文法学者の構文論の流れをきちんと理解すること。

21 ～ 44 ページ

「文の構造と種類」を考える項目である。助動詞・助詞の相互承接による文構造を習得すること。

45 ～ 65 ページ

「格」は日本語の格を考える項目である。古典語と合わせて現代語の格の意味づけを考えること。

66 ～ 79 ページ

「連用修飾」の定義と構文上の位置づけを示している。連用修飾と被連用修飾との関係を考えること。

80 ～ 100 ページ

「連体修飾」は、連用修飾と対比しながら、連体修飾の役割を構文上から習得すること。

ページ 101 ～ 210

101 ～ 120 ページ

「活用」を理解し、活用の種類と活用形の種類とが構文上に及ぼす働きを理解すること。

121 ～ 142 ページ

「ヴォイス」は、日本語でどのように捉えているかを考え、構文上の位置づけを習得すること。

143 ～ 160 ページ

「テンス・アスペクト」の定義をしっかりと捉え、これらによる動詞の分類を考えること。

161 ～ 185 ページ

「モダリティ」の定義と種類を理解し、表現主体・心的態度・発話時点の及ぼす影響を考えること。

186 ～ 210 ページ

「は」の役割を考える項目。「が」と比較しながら、「は」の性格を理解すること。

■学習上の留意点

- ① 「文法」は、基本的に構文上の規則であることを知っておくこと。個別の品詞を理解するのではない。
- ② 教材の文法の捉え方は、新しい考え方に従っているので、その用語・考え方に慣れること。

■参考文献

- ※『国語法研究』橋本進吉著（岩波書店）
- ※『日本文法（文語篇・口語篇）』時枝誠記著（岩波書店）
- ※『改撰標準日本文法』松下大三郎著（勉誠社復刻）

科目コード	科目名	単位数
0356	国語音声学	4単位

教材コード 000266

教材名 国語音声学

著者名等 栗林 均

■教材の概要

教科書は第1章から第6章までの6章によって構成される。これを、第1章から第4章までの前半と、第5章から第6章までの後半に分ける。

前半は国語音声学や音声学の基本的な理解と、母音・子音という分類に基づいて日本語に用いられている個々の音声を学ぶ。

後半はそれらの音声が結合する際に生じる現象、音声が結合して構成される日本語の音節、さらに音節にかぶさる形で存在しているアクセントについて学習する。

■学習計画のポイント

ページ1～97

第1章の「序論」は、音声学の基礎的な知識を学ぶ。具体的な学習の前提となるものである。

第2章の「音声器官」は、調音音声学の基礎として音声を発するのに関わっている口や喉の器官のしくみと働きを学ぶ。

第3章の「母音」では、母音分類の基準とそれに基づいた日本語の母音の特徴を学ぶ。8つの基本母音は、フランス語の8つの母音に近い。フランス語の録音教材を利用してもよい。

第4章の「子音」では、子音分類の基準と、それに基づいて日本語の具体的な子音を学ぶ。音声記号の表記が読め、またそれによって日本語を表記できるようになることを目指していただきたい。

ページ99～164

第5章の「音節」では、外来語を表す新しいかな表記とそれに対応する発音についてまなび、さらに「母音の無声化」と「ガ行鼻濁音」について取り上げる。これで、日本語の標準的な発話は音声記号で表記することができるはずである。いろいろな発話や、文章を音声記号で表記してみるようにするとよい。

第6章の「アクセント」では国語音声学の中心柱のひとつであるアクセントの性質と表記方法について学ぶ。音声記号の学習と同様に、表記してあるアクセント表記を発音できるように、また実際の発話や文章の朗読を聞いてアクセントを記録できるようにすることを目標としていただきたい。

■学習上の留意点

国語音声学では、難しい発音を練習して習得するということはいらない。国語の音声は日常の生活にあふれており、私たちが普段耳にし、自分でも発しているものである。見慣れない発音記号は難しく思われるかも知れないが、実際の音と対応させながら学ぶようにすることが大切である。「実際の発音」「発音記号」「調音的な特徴」を切り離さずに学ぶと効率が上がる。アクセントの場合も、「実際のアクセント」「アクセント表記」「アクセントの型」の3つを1つとして、学習を進めていただきたい。

■参考文献

『日本語音声学（修正）』天沼寧著（くろしお出版）

※『日本語発声概説』川上葵著（おうふう）

『日本語音声学入門 改訂版』斉藤純男著（三省堂）

『日本語の音韻とアクセント』中条修著（勁草書房）

科目コード	科目名	単位数
0371	漢文学Ⅰ	4単位

教材コード 000437

教材名 漢文学Ⅰ

著者名等 舘野 正美

■教材の概要

この『漢文学Ⅰ』は、いわゆる“漢文”の基礎を学び、少しずつ漢文が読めるようになるための、謂わば“トレーニング”の書である。しかし、実際のところ、内容を考えることなく、ただその字面だけを追うのは、大学で学問としての“漢文学”を修めることではない。中国の古典文献、すなわち“漢文”の持つ、深く豊かな内容に触れながら、そして、少しずつでもその内容を理解しながら“学問の力”をつけて頂きたい。

■学習計画のポイント

ページ1～114

まず漢文の基礎を概観し、実際の漢文を読んで行く。その際、漢字については、その起源である殷墟卜辞から、篆書・隸書等、さまざまな形態、そしてその三要素（形・音・義）、更にはいわゆる“六書”等について、各自しっかりと勉強しておいて頂きたい。

その上で、『詩経』に見える、中国古代の民衆の率直な心の内や、『楚辞』に見える屈原の精神的ジレンマ、そして『論語』・『孟子』・『荀子』等、いわゆる儒家の思想、そして最後に“運命の書”である『易経』の（単なる占いを超えた）深淵な内容に触れて頂きたい。

ページ115～262

ここではまず『老子』と『莊子』という、いわゆる“道家”の思想家の文を読む。従来“難解だ”と言われて続けて来た彼らの文章ではあるが、“人間の真実”を語る、という意味では、むしろ単純明快な内容の記述である。大事な内容を明確に捉えるよう心掛けて頂きたい。

更に『韓非子』は、その人間理解に焦点を当てて、又、『呂氏春秋』では、我々人間の健康な生活という点に注目して、それぞれの内容をつかんで頂きたい。尚、『呂氏春秋』の最後の神話学については、漢文の多様な読み方の一例として、大いに参考にして頂きたい。

■学習上の留意点

既に述べた通り、漢文学の内容は、極めて広く深淵である。単なる字面の解釈や丸暗記でなく、少しずつでも、その深く豊かな内容に、自分も参与する気持ちで取り組んで頂きたい。

■参考文献

テキストの該当箇所をご覧ください。

科目コード	科目名	単位数
0372	漢文学Ⅱ	2単位

教材コード 000108

教材名 漢文学Ⅱ

著者名等 青山 宏

■教材の概要

本教材の第1単位は『漢文学Ⅰ』の第2単位「詩文編」の第1章「詩」を、第2単位は、同「文」及び第3・4単位の『序説・諸子講読』を継ぐものとなっている。第1単位では宋代以降の詩を扱い、第2単位では、『漢文学Ⅰ』で取り上げられなかった『論語』を始めとする儒家の原典、我が国の文化習俗に関係深い晋・梁の文、並びに宋代以降の文を扱っている。各「単位」の後には学習の便宜となり深い理解を図るために、「参考書」と「研究問題」とが付けられている。

■学習計画のポイント

ページ1～85

「詩編」の学習に当たっては、『漢文学Ⅰ』で学んだ唐代に至るまでの詩、特に唐代の詩の概要をよく把握しておくこと。また各章冒頭の解説、各詩に付した解説をよく読むとともに、紹介の参考書類を十分に利用して理解を深めること。

ページ87～162

「文編」の学習では、各章毎にそこでの学習の目標がどこにあるかをよく考えて学ぶこと。第1章「儒家の典籍」は内容がやや高度なので、得心のゆくまで繰り返してよく読むこと。第1単位同様、参考書類を十分に活用することが必要である。

■学習上の留意点

基本の理解が第一である。そのためには教材を繰り返し読み、不明な点を後に残さないこと。教材中の本文に付せられた「注」や「語釈」で足りないところは、漢和辞典や参考書を活用すること。

■参考文献

参考文献は教材の各単位の後に掲げてあるので、よく目を通すこと。また、『漢文学Ⅰ』に掲げられた参考書類や注意書きを参照のこと。

科目コード	科 目 名	単位数
0379	文章表現法	4単位

教材コード 000109

教 材 名 『日本語の表現』

(学習指導書別冊)

著 者 名 等 久保田 修 編

■教材の概要

本教材は、日本語における「話す・聞く・書く・読む」という四つの活動をもとに二編にまとめている。例えば、文章を書くためには、準備段階と作成段階とに分けて学ぶ必要がある。準備段階では、表記力（第一章）、表現力（第五章）、読解力、思考力をつけることが大切である。作成段階では、書く手順（第二章）、書き方（第六章）、書く技術（第三章）が重要である。もちろんその基本には、日本語の特色（序説）や文章の性格・目的・種類（第四章）を学ぶべきである。

■学習計画のポイント

ページ 9 ～ 131

まず、日本語の基本的な事柄を学ぶ（序説）。次に文章を書くための準備段階として、表記力（第一章）を学ぶ。さらに作成段階として、書く手順（第二章）と書く技術（第三章）を学ぶ。

ページ 132 ～ 274

書くための基本的なものとして、文章の種類（第四章）を学ぶ。次に表現力をつけるために名文（第五章）に学ぶ。さらに、実用文の書き方（第六章）を学ぶ。

次いで、話しことばの基本（第二編第一章）を学ぶ。そして話しことばの実践（第二章）や朗読（第三章）を学ぶ。

■学習上の留意点

箇条書にして列挙している所、用例の解説、「演習」などに留意。

■参考文献

特になし。

科目コード	科目名	単位数
0411	イギリス文学史Ⅰ	4単位

教材コード 000111

教材名 イギリス文学史Ⅰ

著者名等 岡崎 祥明・関谷 武史

■教材の概要

教科書の前半部では、英文学の起りから19世紀のロマン主義復興にいたるまでの変貌の姿を、社会的・思想的背景を視野に入れて説明してある。後半部では、前半部での説明をより確実に身につけるように、アンソロジーが編纂されている。重点主義を編纂の方針としてあるため、重要と思われる作品が厳選され、かなりの分量の引用がなされている。精読することによって作品への興味が自然に湧いてくる筈である。

■学習計画のポイント

ページ1～162

1～68ページ

Anglo—Saxon England の文学からエリザベス朝の散文文学にいたる迄の、英文学の展開が説明されている。各章で、歴史的、思想的背景が説明され、具体的に作家・作品が取り挙げられている。

69～162ページ

エリザベス朝の劇文学からロマン主義前衛の詩人たちにいたる迄の英文学の展開が説明されている。各章で、歴史的、思想的背景が説明され、具体的に作家・作品が取り挙げられている。

ページ167～366

167～285ページ

Geoffrcey Chaucer と William Shakespeare を、「第1単位」で扱った時期の最も重要な作家として取り上げられ、彼らの作品の中から最も重要と思われる作品が選ばれ、それに、説明と注釈が施されている。

289～366ページ

「第2単位」で扱った時期の作家の中から、John Donne, Andrew Marvell, John Milton, Alexander Pope, Thomas Gray, William Blake が取り上げられ、彼らの作品の中から重要と思われる作品が選ばれ、それに、説明と注釈が施されている。

■学習上の留意点

- ① 上記の学習のポイントに沿って勉強すること。
- ② 引用されている作品を説明文と注釈を参考に精読すること。

■参考文献

特になし。

科目コード	科目名	単位数
0412	イギリス文学史Ⅱ	4単位

教材コード 000112

教材名 イギリス文学史Ⅱ

著者名等 阪田 勝三・原 公章

■教材の概要

イギリス文学史Ⅰに続いて、前半は「ロマン主義の時代」・「ヴィクトリア時代」・「第一次大戦までの時代」及び「現代まで」の主要なイギリス文学史の流れを、時代背景、主要作家・作品を解説しながら略述している。短い言葉の中に豊富な内容が込められている。後半は主要作品のアンソロジーで、ここに挙げられたまとまった長さの抜粋を熟読し、付けられた Notes を参照することにより、前半部の解説の具体的な肉付けが可能となる。

■学習計画のポイント

ページ 1 ～ 162

1 ～ 75 ページ

ロマン主義の時代では、ワーズワス、コールリッジを初めとする主要詩人を相互に比較しつつ理解しておくこと。ヴィクトリア時代では、スコット、オースティンから始まる小説の発達に目を向けること。文学史上の意義を常に見失わないよう。

76 ～ 162 ページ

20 世紀初頭、大戦の谷間、第二次大戦以降と大きく三つの時代に区分して、それぞれに固有の（共通の）傾向を看取すること。ハーディ、ジェイムズ、コンラッド、フォースター、ウルフ、ジョイス、ロレンス、エリオットには特に注意すること。

ページ 169 ～ 480

169 ～ 331 ページ

ロマン派の代表的詩人 5 人の代表作を、それぞれ一作ずつ挙げてある。第 1 単位での解説及び Notes を参考にしつつ、全体に目を通すこと。またワーズワスの詩論にも目を通すこと。テニスン、ブラウニングの作品と読み較べること。

335 ～ 480 ページ

19 世紀を代表する小説家 10 人の代表作 13 作より、それぞれ第 1 章を抜粋したアンソロジーである。テキストを一字一句理解することは、かなり困難であるかもしれないが、この時代の大作家理解への第一歩となることは疑いない。

■学習上の留意点

- ① ロマン主義詩人とヴィクトリア朝詩人の違い、また小説の発達という観点から流れを知る。
- ② 20 世紀は 19 世紀と根本的にどのように異なるかを考えること。
- ③ 何より、ここに挙げられた作品を十分に読むこと。
- ④ Notes を十分に活用して、大小説の第 1 章がどのように書かれているか、理解すること。

■参考文献

市販の各種「イギリス文学史」を参考にするのもよいが、教材を何よりまず十分理解することが先決。できれば英語で書かれた文学史を一読してほしい（これも数多く出ているので自分で調べてほしいが、初心者用にはロングマンや金星堂から出版されているものがよいだろう）。教材に挙げられている作品の中から興味を感じたものを少しずつ読んでいってほしい。

科目コード	科目名	単位数
0414	アメリカ文学史	4単位

教材コード 000267

教材名 『An Outline of American Literature』

(学習指導書別冊)

著者名等 Peter B.High

■教材の概要

本教材は、アメリカ植民地時代から今日に至るまでのアメリカ文芸事象・文学動向の変遷を概観した著である。Chapter 1 の Colonial Beginnings から Chapter 17 の Popular Fiction まで全 17 章からなるこの教材は、平易な英語で書かれてはいるが、単にアメリカ文学の時代的変遷を紹介するものではない。取り上げられる作家・詩人・思想家たちのその時代の対社会との関わり方を、作品を通して解説してみせる。併せて巻末の 'Glossary of literary terms' から分かるように専門的に文学に取り組もうとする学習者への入門書でもある。

■学習計画のポイント

ページ 5 ～ 108

教材 Chapter 1 の Colonial Beginnings から Chapter 8 の At the Turn of the Century までを、前半とする。学習者は、まず教材を読み、各章毎にその内容をノートにまとめる作業をする。次にまとめたノートから自らが興味を覚える時代の作家、詩人、思想家たちの作品に翻訳書を座右においてでも数多く触れることが大切である。作品に直接触れると、時代の中の作家・作品という知識的壁が壊れて、作品と読み手である自分との関係が生ずる。作品から感動・共感・反発・疑問を覚えるはずである。そのような箇所をノートして、何故そう思うのか、感じるのかを自らが反芻することが大切である。

ページ 109 ～ 241

教材 Chapter 9 の The Turning Point of American Literature から Chapter 17 の Popular Fiction までを後半とする。学習者はまず教材を読み、各章毎にその内容をノートにまとめる作業をする。また学習作業としては、前述で示唆したように、作品を自らがどう読むかが明らかになるような学習を心がけたい。

■学習上の留意点

科目修得試験については、『科目修得試験の手引』で学習上のアドバイスとして指示する場合があるが、教材内容の理解にとどまらず、平素から自らが数多くの作家・作品に直接触れることが何よりも大切である。

■参考文献

アメリカ文学に関する著書は、和書・洋書を問わず無数に出版されている。自らがさらに追求したい作家なり作品が狭まってきた時点で、それぞれに適した文献を探してもらうことになるが、何よりも心がけていただきたいのは自らが作品そのものに直接触れるという点である。

科目コード	科目名	単位数
0431	英米文学特殊講義	4単位

教材コード 000116

教材名 英米文学特殊講義

著者名等 関谷 武史・原 公章・當麻 一太郎・寺崎 隆行

■教材の概要

テキストは四人の執筆者がそれぞれ専門とする作品について論じた内容から成っています。各執筆者が長年に亘って研究してきた文学作品を論じたものであるだけに、内容はいずれも堅実かつ刺激的です。扱われている作品を読み、本テキストを読むという行為を繰り返して、文学作品の読みの力を身に付けてください。

■学習計画のポイント

ページ 1 ～ 150

前半部では W.Shakespeare の 4 作品が取り上げられ、登場人物の心の探層が読解されています。また、現代思想との関連で、「主体性」「アイデンティティ」「他者性」、「無意識」等が問題とされ、Shakespeare 作品の今日的意、味が論じられています。後半部では N. Hawthorne の 2 作品が取り上げられ、人物像、登場人物の言動、庭園の象徴性が、作品のテーマとの関連において論じられています。また、「愛」、「闇の力」、「原罪」等の問題が作家の宗教観と思想との関連において論じられています。

ページ 151 ～ 284

前半部では G. Meredith の小説が Victoria 朝の精神風土との関連において論じられています。また、彼の作品に見られる「反逆精神」、彼が期待する「新しい読者」、彼が定義する「喜劇」または「喜劇精神」等の問題が論じられています。また処女作から中期迄の作品が青年の心を表現したものとして論じられています。

後半部では H. James の代表的作品が「自我」描写の変容の様を通して論じられています。初期から後期の作品に至る人物像の変遷、文体の変化、更には、「アイロニー」、「リアリティー」、「視点」、「語り手」等の問題が作品に即して論じられています。

■学習上の留意点

各執筆者が言わんとしている事を正確に把握するには、扱われている作品そのものの理解が必要です。作品とテキストの精読を繰り返し実行して下さい。学習指導書をも参考にして読み進めてください。

■参考文献

各論文の註または学習指導書に挙げられている文献を読んで下さい。更にそれらの文献の巻末に挙げられているものを読むといったようにして勉強の幅を広げていってください。

科目コード	科目名	単位数
0441	英語史	4単位

教材コード 000117

教材名 『ブルック英語史 A HISTORY OF THE ENGLISH LANGUAGE』(学習指導書別冊)

著者名等 G.L.BROOK 著, 石橋 幸太郎・中島 邦男 注釈

■教材の概要

第1章「英語の発達」では英語の一般的な歴史的記述だけでなく、それ以前のインド・ヨーロッパ語、ゲルマン語にまで説き及んで英語の成り立ちを述べる。第2章以降は「音韻論」(音の変化)「綴り字」「語形論」(語の変化)「統語論」(語と語の組み合わせ、文の構造の変化)の各々について、古期英語時代、中期英語時代、現代英語時代と、各時代毎の変化について記述する。

■学習計画のポイント

ページ 1 ～ 81

1 ～ 33 ページ

インド・ヨーロッパ語とは、どういう言語か、また、英語はどのような系統の言語か。英語はどのような歴史を経て、今日の姿になったのか、英語の成り立ちを捕える。特にノルマン人の征服が英語に及ぼした影響に注意する。

34 ～ 81 ページ

発音・綴り字がどのような変化をして今日のようになったのか、特に、発音では大母音推移、また、綴り字ではフランス語・印刷所の影響に注意する。

ページ 82 ～ 136

82 ～ 114 ページ

名詞の不規則な複数形変化、人称代名詞、特に二人称の場合、動詞の弱変化、強変化・その他の be 動詞・go などに注意する。弱変化・強変化動詞は今日の規則変化・不規則変化動詞とどう関係するのか、をも考えてもらいたい。

115 ～ 136 ページ

s 語順の変化、属格、Itisme、関係代名詞、非人称動詞（非人称構文）、動詞組織、特に未来の表し方・do の変遷、接続法（仮定法）、不定詞に注意する。

■学習上の留意点

- ① テキストの重要・キーポイントとなる部分の英文を理解する。
- ② 『学習指導書』を参考にする。
- ③ 『学習指導書』の問に答える。

■参考文献

『図説英語史入門』中尾俊夫・寺島勲子共著（大修館書店）他については『学習指導書』を参照。

科目コード	科目名	単位数
0445	英文法	4単位

教材コード 000270

教材名 英文法

著者名等 小川 睦子

■教材の概要

英文理解のための基本的な文法事項だけをまとめてあります。取り上げている主な事項は、英文の構造・文を構成する語の分類と文中での機能・語のグループである句および節の構造と機能・その他です。それぞれの事項について2～3の例文を挙げてありますが、例文については独りでも理解できるようにできるだけ詳しく説明してあります。所々に簡単な練習問題があり、巻末に回答と説明をあげてあります。

■学習計画のポイント

ページ1～133

第1章では文の構造は主部と述部から、しかもこの語順で成り立っていることを理解して下さい。英語と日本語の違いを知ることは英文理解の参考になるでしょう。

第2章では英文を構成している最小単位である語の分類すなわち品詞分類とその文中での機能を理解して下さい。英語では品詞によって文中での機能が決まりますので、品詞とその機能を理解することが英文法学習の基本中の基本といえます。繰り返し学習して下さい。

ページ135～223

英文を構成する語は一列に等価で並んでいるのではなく、互いの結びつきの密接なものそうでないものが大小さまざまなグループを作っています。第3章ではそのうちの句、特に準動詞と呼ばれるものの構造と文中での機能を理解して下さい。そして第4章では文を構成する句に対する節のグループの構造および文中での機能を理解して下さい。

第5章には英文でよく使用される決まった構造をいくつか挙げてあります。いずれもこれまでに説明されたものですので、もう一度思い出してよく理解して下さい。

■学習上の留意点

英文法の基本は品詞とその機能です。これは語のレベルだけでなく句・節のレベルでも繰り返されますので、その繰り返しの気づき、覚えて下さい。

■参考文献

『英文法詳解』杉山忠一著（学習研究社）

『英語の文法（英語学入門講座 第8巻）』（英潮社）

※『現代英文法辞典』荒木一雄・安井稔編（三省堂）

『A Practical English Grammar（実例 英文法（第4版）』A.J.Thomson&A.V.Martinet,Oxford

科目コード	科 目 名	単位数
0 4 4 7	英作文 I	2 単位

教材コード 000120

教 材 名 英作文 I

著 者 名 等 上杉 明

■教材の概要

本教材は、与えられた日本語を英文に翻訳する技術を養うことを目的に、そのために必要な知識や練習問題から成り立っている。よい英文を書くための注意、アドバイスに始まり、英文で頻繁に使われる動詞に焦点を置いた練習、主語の工夫の仕方、イディオム中心の英作文の練習となっている。

■学習計画のポイント

まず、注意事項・解説をよく読み、英文はすべて繰り返し音読すること。「英語に飛び込もう」にでてくる8つの動詞を使って自分で英文を作ってみること。イディオムだけを暗記しようとせず、自分でイディオムを用いた短い文を作って覚えるようにすること。

■学習上の留意点

- ① 辞書をまめに引くこと。
- ② 提出する前に、よくチェックし、基本的な誤りがないようにすること。

■参考文献

英和辞典
英英辞典

科目コード	科 目 名	単位数
0 4 4 8	英作文Ⅱ	2 単位

教材コード 0 0 0 1 2 1

教 材 名 英作文Ⅱ

著 者 名 等 上 杉 明

■教材の概要

本教材は、様々なイディオムの学習を通して和文英訳の練習をする前半と、エッセイを書くためのステップを踏んだ解説と学習をする後半とで成り立っている。

■学習計画のポイント

ページ 1 ～ 134

エクササイズの日本語を自分で英語に訳してみた後、解答と比べてみる。イディオムを暗記しようとするときは、必ず短い文として覚えること。英文は繰り返し音読すること。

ページ 135 ～ 227

まず、解説、特にエッセイの形式についての説明を精読し、英文のエッセイの書き方を理解すること。エッセイを書く際には、必ず考えを整理し、全体の構成を決めてから書き始めること。

■学習上の留意点

- ① 辞書をまめに引くこと。
- ② 提出前に、よくチェックし、基本的な誤りがないようにすること。

■参考文献

英和辞典
英英辞典

科目コード	科目名	単位数
0450	英語音声学	4単位

教材コード 000413

教材名 『新装版 英語音声学入門』

著者名等 竹林 滋・斎藤 弘子

■教材の概要

調音音声学の枠組みに基づき、英語音声の特徴が詳細かつ体系的に解説されているテキストです。付属のCDを利用して実際の音声を確認することができ、様々な発音練習と聴き取りの問題に取り組むことができます。このテキストは、私たちの学習目標を達成するための助けになります。私たちには、英語音声学の学習を進めていくにあたって、ふたつの目標があります。ひとつは「英語の音声・音韻体系の主要な特徴を理解すること」で、もうひとつは、「英語音声を自覚的に運用するための音声学的視点を身につけること」です。これらの2つの目標を達成することを念頭において、学習を進めて下さい。テキストでは、日本語音声の解説が随所にありますから、身近なところから観察を始めて、英語音声の特徴を理解することに結びつけていくことができるでしょう。

■学習計画のポイント

英語音声の特徴を2つに大別して学習を進めます。前半は分節の特徴で、様々な母音や子音と呼ばれる個々の音を対象とします。後半は、音の連続とプロソディ（超分節の特徴）で、話しことばにおける発音の変化、アクセント、イントネーションを対象とします。

ページ 3～123

現代英語の標準発音と分節の特徴について学習します。次の点を中心にして、学習を進めて下さい。

- ① 英米における標準発音の特徴づけ。
- ② 発音のしくみと言語音の分類との関係。
- ③ 母音を記述するための音声学的基準とそれらに基づく英語母音の記述。
英語母音の分類や個々の母音の音質だけではなく、綴り字との対応についても理解を深めて下さい。
- ④ 子音を記述するための音声学的基準とそれらに基づく英語子音の記述。
英語子音の分類や個々の子音の音質だけではなく、綴り字との対応についても理解を深めて下さい。

ページ 125～224

英語における音の連続とプロソディについて学習します。次の点を中心にして、学習を進めて下さい。

- ⑤ 音節、子音連続とその発音の特徴、そして連続音声における発音の変化の種類。
単語や文を単位とした音声特徴の理解を深めて下さい。
- ⑥ 単語、複合語、句、そして文における強勢アクセントの特徴。
強勢アクセントの配置にみられる規則性と英語に独特の「強勢拍リズム」について理解を深めて下さい。
- ⑦ イントネーションの構造と様々な用法。
- ⑧ 音素は「音韻論」の基本的概念のひとつです。調音音声学とは異なる観点から、言語学がどのように特徴づけられるのかを考えてみましょう。
- ⑨ 綴り字と発音の関係について、フォニックス理論に基づいて考察を進めます。
英語発音を学習する上で、綴り字がどのように役に立つのかを考えてみましょう。

■学習上の留意点

付属CDを利用して、必ず実際の音声を確認しながら学習を進めて下さい。CDをジッと聞いているだけでは英語音声を体験することはできません。皆さん自身がモデル・スピーカーの発音を再現することを目指し、ひとつひとつ注意深く観察しながら、大きな声で発音練習をしてみましょう。

また、テキストの内容を実践的に理解するために、発音練習で難しさを感じた（または、容易に感じた）英語発音や、英語発音を聴いていて気がついたことを「音声学の言葉」で表現（説明）してみましょう。

■参考文献

参考文献は、テキスト巻末に解説付きで紹介されています。ここでは、そこに紹介されていないものを挙げます。

【International Phonetic Association のホームページ】 <http://www.arts.gla.ac.uk/IPA/ipa.html>

【英語発音辞典】

- ・ Daniel Jones, Roach, Peter, James Hartman and Jane Setter. (2003) *English Pronouncing Dictionary*. 17th Edition. Cambridge : Cambridge University Press. (CD-ROM 付)
- ・ Wells, John. (2008) *Longman Pronunciation Dictionary*. Third Edition. Harlow : Pearson Education Ltd. (CD-ROM 付)

科目コード	科 目 名	単位数
0 4 5 3	スピーチコミュニケーション I	2 単位

教材コード 0 0 0 1 2 3

教 材 名 Effective Communication I

著 者 名 等 Kenneth E. Williams

■教材の概要

Your text, "Effective Communication I ", is a task-based program. In this book you will move through an umber of real life situations.

You will "meet people", "go shopping", "call friends on the telephone", and more. Try to do all of the conversations as well as you can! Have Fun!

■学習計画のポイント

ページ 1 ～ 44

Do not rush through the book! This part of your text is important because you must meet and "say hello" before you can communicate with people. Do not go on until you can do this section!

ページ 45 ～ 93

After you meet and start to communicate with people you will visit a foreign country.

Be sure you understand each part before you goon.

■学習上の留意点

Your test will relate to your text and I will look to see if you understand the book!

■参考文献

A good, simple English-English dictionary can help you.

科目コード	科 目 名	単位数
0 4 5 4	スピーチコミュニケーションⅡ	2 単位

教材コード 0 0 0 1 2 4

教 材 名 Effective Communication Ⅱ

著 者 名 等 Kenneth E. Williams

■教材の概要

This book is designed to help you understand and communicate in English. The fill in portions are designed to help you see how words and phrases are used to express what you want. You should spend time working on the parts in each unit and then see and use them in larger conversations.

■学習計画のポイント

ページ 1 ～ 49

First you will work in “requesting assistance”, then in ways to “control people’s speech”. Be sure that you understand the parts and practice the parts before you go on to the next section.

ページ 50 ～ 109

In the second part of your text you will practice “asking and giving opinions”, “comparing things” and “using numerals”. Do not rush through this section as it is a bit difficult.

■学習上の留意点

Your test will cover information from the text. Therefore, I will check to see if you understand the book.

■参考文献

A good, simple English-English dictionary will help you.

科目コード	科目名	単位数
0471	放送英語	2単位

教材コード 000128

教材名 放送英語

著者名等 真鍋 輝明

■教材の概要

衛星放送などにより世界中のできごとが、リアルタイムで茶の間に入ってくる今日、実社会で活躍するには TV & Radio の英語ニュースを直接理解することは極めて重要である。

この科目では、聴いて理解されることが目的である放送のスク립トはどのような特徴と要領をもって準備されるのか、また、放送送出の際、アンカーパーソン（キャスター、アナウンサー等）は、どのような要領でニュースを伝えていくのか、その技術面などについても研究し、ニュース理解に役立てる。

■学習計画のポイント

ページ1～135

ニューススク립トの作成を中心に学習する。ニュースの即時制尊重から、“現在完了形”、“現在進行形”、“現在形”が多様されること、また、“時の不一致”など、“文章構成”の際の特徴、“耳”で理解されるということからくる数字、人名、肩書などの処理法をも学ぶ。

ページ137～265

将来、放送関係の業務に就くかどうかにかかわらず、ニュース理解のためには、発音、発声、ニュースの pitch, speed, rhythm など、さらに articulation に慣れなければならない。

広く、放送英語ニュースのアナウンス技術を学んでいく。

■学習上の留意点

- ① ニューススク립ト作成の基本（用語・文の特徴など）新聞英語との違いも。
- ② ニュースにおける即時性を重視したライティングの要領。
- ③ アナウンスに求められる自然な flow, clarity などの習得のコツ。
- ④ 口語表現の活用とインタビューの要領、およびニュース聴取の演習（反復聴取）。

■参考文献

※『The Latest NEWS in English』茅ヶ崎方式月刊英語教本 北山節郎著（茅ヶ崎出版）

テキストには勿論、CD もついているので、反復聴取練習し、さらに、VOA, BBC の“Special English”（1 分間 120 語程度の速さ）を努めて聴き、TV ニュースもできるだけ頻繁に視聴するように努めることが参考となる。

科目コード	科目名	単位数
0472	新聞英語	2単位

教材コード 000129

教材名 新聞英語

著者名等 那須 弘三郎

■教材の概要

この教材は第1単位〈1. News Story (a～e)〉, 第2単位〈同 (f～g)・2～5〉, 付録の〈学習指導書〉の3部より構成されています。重点度をもとにした学習順序としては, ① Headline の読み方 (201～208 ページ) ② Lead (書き出し) の語法と文法 (209～212 ページ) 続いて a. Social Life (社会面), e. Accidents (事故) Disasters (災害) Environment (環境), Weather (天気), f～g Politics (政治), Business, Economy, Money Market (企業, 経済, 市況) となっています。しかし広く学習する事を重視するならば, 各項目の中より5～6問を選び, 新聞記事らしく訳することを薦めます。

2～5の項目はレポート学習用としてかなり長時間をかけてください。

■学習計画のポイント

ページ1～81

a～eの各項目より最初の6問を練習用として訳してみる。次に各項目中で, 受講生が最も興味を持てる記事を精読し, 記事の製作者になったつもりで訳してみる。

ページ83～198

f～gの項目では, 各記事の第3パラグラフまで速読し, 各問題中より異種のもの1問を精読し訳してみる。2～5の各項目では, 記事の内容の時事性が現在まで継続し, また内容に最も興味を持てるもの1問を精読・和訳してみる。

■学習上の留意点

- ① ニュースストーリーは, 如何なる場合でも“見出し”と“書きだし”だけは絶対に正確に訳すること。
- ② コラム, レビュー, レターズは最小限, 全文の趣旨を把握しておくこと。
- ③ 新聞英語は Headline, Lead, Body という3つの構成部分から成っています。Headline は読者の注意を喚起するものであり, より簡潔な表現を求めて特有の表現法が試みられています。Lead は全文を要約するもので, その中には記事内容の要点が含まれており, その後の Body には補足説明が記されています。したがって, Lead 部を中心に5W1H (who, what, where, when, why や how) の要素を把握し, 全体の要旨を捉えるような読み方を心がけて下さい。

■参考文献

※『新聞英語の学び方—語法中心』安田哲夫著 (ジャパントイズム) その他, ジャパントイズム出版のものをもっとも Reliable でしょう。

科目コード	科目名	単位数
0476	英米事情Ⅰ	2単位

教材コード 000414

教材名 『新装 アメリカ社会文化史 American Society』

著者名等 Robert H. Walker

■教材の概要

教材内容はアメリカ合衆国の成り立ちから現代へ移るアメリカ人の抱く基本的概念を紹介しながら、アメリカ人の自意識形成が説明されている。経済、工業、文化そしてアメリカ人精神などを、アメリカ社会の発展の中に描いている。特に、アメリカ社会の変容に注目して読むこと。

■学習計画のポイント

ページ1～48

第1章から第4章までを読むことであるが、ここでは初期のアメリカ合衆国のさまざまな歴史の変遷を説明している。アメリカ人の精神的考え方や支えが生まれている。ヨーロッパ文化 vs アメリカ文化の対比などに注目して下さい。

ページ49～98

後半の第5章から第8章までの内容であるが、これらの章は近代文化のアメリカ合衆国である。経済、工業、近代社会へのアメリカ都市などを論じているので、それぞれの年代に応じながらマトメてみるのが良いでしょう。

■学習上の留意点

初期のアメリカ合衆国も大切であるが、第7章、第8章を理解することにより、現代のアメリカ社会を分析しやすいと考えている。現代アメリカ社会と初期のアメリカ社会の比較した上で共通点などを見つけると良いでしょう。

■参考文献

特になし。

科目コード	科 目 名	単位数
0 4 7 7	英米事情Ⅱ	2 単位

教材コード 000465

教 材 名 『近現代イギリス事情』

著 者 名 等 John Randle

■教材の概要

このテキストは現代のイギリスを考える上で、なくてはならない基礎的な通史である。18世紀のイギリスの産業革命から始まり、国策となる植民地政策のあり方など、近現代の時代の国家模様を読みとれるはず。特に、John Randle氏は連合王国（イングランド、スコットランド、ウェールズ、北アイルランド）の現在直面している、イギリス国家の諸問題を客観的に述べている。また、世界に拡大していった植民地とイギリス文化などを読み取って欲しい。

■学習計画のポイント

イギリスの歴史を通して、国家の政策、王朝、文化、生活、政治と議会、産業、自然などをキーポイントとしながら読んでみる。また、拡大したアジアの植民地とイギリスの文化政策などにもメモを取り、他の参考文献などでトピック内容を広く、深くする。読み、理解することが重要であります。3ページから63ページまではイギリスの近代の歴史の変遷に重点が置かれている。それに対して、64ページから93ページまではイギリスの現代視点が強くでているはずであるので、比較しながら検討してください。

■学習上の留意点

各項目、各歴史の出来事などについて、大意をつかむようにして読んでください。テキストの内容理解を深めるためには、学習者は、さらにイギリスに関する補助資料（百科事典、その他の事典等）を参照することを奨める。あるいは市販されているイギリスの文献（図書館の蔵書）に目を通す必要もある。

■参考文献

『イギリスの生活と文化事典』安藤伸介 他編者（研究社）

科目コード	科目名	単位数
0478	異文化間コミュニケーション概論	2単位

教材コード 000415

教材名 『日本とアメリカ深層文化へのアプローチ』

著者名等 Paul Stapleton

■教材の概要

この教材は日米の文化論であり、異文化間コミュニケーション（北米 vs 日本）の内容を Topic ごとに分けて、理解しやすい説明となっている。それぞれの Topic を読み、マトメてみると、共通した考え方がそれぞれの文化の底流に流れていることに気付くはずです。受講者の方々も日本文化を理解したり、再認識する場面が出て来ると同時に、北米文化の合理性を持つ特徴などを学ぶことが出来るはずです。

■学習計画のポイント

ページ 2 ～ 38

平易な文体で、読みやすい英語であります。教材の前半は基本的な文化を比較しているので注意しながら用語を理解して欲しい。特に、文化論に加えて、国民の持っている価値観や意識に注目していくと良い。

ページ 39 ～ 85

教材の後半は若者が日米の社会の動きに注目して、現在、未来のそれぞれ国の文化の変動・変化に目を向けている。社会の地殻変動がどのようにそれぞれの国民（民族）意識を変えて行くのか理解して欲しい。

■学習上の留意点

教材のみに捕らわれず、種々参考文献を読むことにより、さらに異文化間コミュニケーション論を深めることができます。教材の中に示されているキリスト教 vs 仏教・神道あるいはキリスト教 vs 仏教・神道・儒教の比較なども頭に入れて置く必要あり。

■参考文献

特になし。参考文献は日本とアメリカに触れている本であれば必ず参考となる idea が生まれるはず。

科目コード	科目名	単位数
0511	西洋思想史Ⅰ	4単位

教材コード 000133

教材名 西洋思想史Ⅰ

著者名等 小林 利裕・荻原 欒

■教材の概要

『西洋思想史Ⅰ』は、西洋古代・中世哲学史を内容にした講義である。思想には政治思想、社会思想、文芸思想などいろいろあるが、それらの基本は哲学である。古代哲学はギリシア哲学を、中世哲学はキリスト教を中心としており、いずれもヨーロッパ思想の源流をなしている。それを知らなければヨーロッパ思想は理解できない。ソクラテス、プラトン、アリストテレス、アウグスティヌス、トーマスなど、馴染み深い人の哲学を講述する。

■学習計画のポイント

ページ 1 ～ 224

1 ～ 110 ページ

ソクラテス以前の哲学を学習する。自然に対する考察が中心で、ヘラクレイトスとエレア学派の前期、多元論と原子論の後期に分かれ、それはソフィストに帰結する。全体の流れを理解することが大切である。

111 ～ 224 ページ

ソクラテス、プラトン、アリストテレスの哲学を学習するが、ギリシア哲学の中核をなす。一つのテーマ(普遍)を追って展開されるから、理論に気をつけるように。それらの出発はソフィストである。

ページ 225 ～ 428

225 ～ 301 ページ

ギリシア哲学とキリスト教哲学の中間に位置する哲学を学習する。プラトンまたはアリストテレスを根拠にしているので、その点をとくに注意してもらいたい。ギリシア哲学を宗教の方向に深めたのがプロティノスである。

303 ～ 428 ページ

中世哲学の中心であるキリスト教哲学を学習する。アウグスティヌスとトーマスが中心であるが、キリスト教そのものの思想をまず正しく理解する必要がある。またギリシア哲学との関連も忘れてはならない。

■学習上の留意点

- ① ソフィストとソクラテスとの関連。
- ② イデアについてのプラトンとアリストテレスの関連。
- ③ アウグスティヌスの神についての考え。
- ④ トーマスの神の存在証明。

■参考文献

- ※『西洋哲学史』ラッセル著(みすず書房)
『西洋哲学史』(講談社学術文庫)今道友信著(講談社)
『哲学－哲学史から学ぶ－』小林利裕著(法律文化社)

科目コード	科目名	単位数
0513	西洋思想史Ⅱ	4単位

教材コード 000134

教材名 西洋思想史Ⅱ

著者名等 藤平 武雄

■教材の概要

本教材はカントを軸としながら、第一篇において、大陸の合理論の哲学（デカルト、スピノザ、ライプニッツなど）とイギリスの経験論の哲学（ロック、バークリー、ヒュームなど）との展開が記述され、第二篇において、カントならびにカント以降のドイツ哲学の展開が記述されている。したがって本授業では、下記のとおり、①大陸合理論の展開、②イギリス経験論の展開、③カントの批判哲学、④カント以降のドイツ哲学の展開等を学習する。

■学習計画のポイント

ページ 1 ～ 91

1 ～ 61 ページ

テーマ：大陸合理論の哲学

デカルトの方法と彼の二元論的世界観を中心にすえて学習し、そのあとで、デカルトの哲学を批判的に展開しながら、それぞれ独自の世界観を創造したスピノザとライプニッツの哲学を学習する。

62 ～ 91 ページ

テーマ：イギリス経験論の哲学

イギリス経験論の展開を全体的に、また系譜的に学習する。そのなかで、とくに力をいれて学習すべき哲学者はベーコンとロックとヒュームである。

ページ 92 ～ 229

92 ～ 123 ページ

テーマ：カントの批判哲学

近世の大陸合理論の哲学とイギリス経験論の哲学とをともに批判しながら、近代ヒューマニズムの哲学を確立したといわれるカント哲学について、(1)その認識論の特徴、ならびに、(2)道徳論の特徴を理解する。

124 ～ 229 ページ

テーマ：カント以降のドイツ哲学の展開

ドイツ観念論の哲学を系譜的に学習する。フィヒテとシェリングとヘーゲルの哲学の特色を理解するとともに、ヘーゲル以降の哲学の展開を学習する。

■学習上の留意点

- ① デカルトとスピノザとライプニッツの世界観をそれぞれ理解する。
- ② ロックの認識論の特色を理解する。
- ③ カントの認識論と道徳論との特色を理解する。
- ④ ヘーゲルの弁証法の哲学を理解する。

■参考文献

- 『方法序説』（岩波文庫）デカルト著（岩波書店）
 ※『知性改善論』（岩波文庫）スピノザ著（岩波書店）
 『モナドロジー／形而上学叙説』ゴットフリート・ヴィルヘルム・ライプニッツ著（中央公論新社）
 ※『人間知性論』ロック著
 ※『人性論』ヒューム著
 ※『プロレゴメナ』カント著（一穂社）
 『プロレゴメナ／人倫の形而上学の基礎づけ』（中公クラシックス）カント著（中央公論新社）
 『歴史哲学講義』（岩波文庫）ヘーゲル著（岩波書店）

科目コード	科目名	単位数
0516	東洋思想史Ⅰ	4単位

教材コード 000392

教材名 東洋思想史Ⅰ

著者名等 舘野 正美

■教材の概要

この『東洋思想史Ⅰ』では、中国古代の春秋戦国時代から秦に至る年代の哲学思想が述べられています。具体的なポイントについては下の記述を参照して載くこととして、このような哲学思想は、いずれも東洋哲学の最も基本的な内容を今に伝えるものであると考えられます。

従って、それぞれに独自の内容を理解すると共に、それらを一貫して流れている基本的な考え方にも十分に注意を払って勉強してください。

■学習計画のポイント

ページ1～126

孔子の思想については、断片的ながら、その背景にある深い思索に思いをいたしつつ理解を深めてください。孟子にも人間の真実についての深淵な考察があります。その哲学的思惟の実際をつかみ取るように努めてみてください。墨子については、殷周革命のことをもう一度おさらいしながら勉強してください。荀子は理論家です。『易経』の思想は、人間の真実としての「運命」という課題について考えながら勉強を進めてください。

老子と莊子については、やはりまずその〈道〉について理解するよう努めてください。その理解を基礎にそれぞれの主張点をトレースすれば分かりやすいでしょう。

ページ127～278

韓非子は、荀子と同様に明晰な理論家です。その理論の展開と限界をつかみ取ってください。『呂氏春秋』に見える様々な哲学思想は、文字通り百花繚乱の様相です。それぞれ違った観点から様々な思想を楽しむ気持ちで勉強してください。

■学習上の留意点

それぞれの深い哲学的思惟のポイントを押さえて理解し、頭の中で明確に把握できるように務めてください。

■参考文献

教材を参照してください。

科目コード	科目名	単位数
0518	東洋思想史Ⅱ	4単位

教材コード 000438

教材名 東洋思想史Ⅱ

著者名等 舘野 正美

■教材の概要

この『東洋思想史Ⅱ』では、中国の漢の時代（B.C.3C.～A.D.3C.）と、それに続く魏晉六朝の時代の思想史が取り扱われている。具体的なポイントについては、下記を参照して頂くとして、それぞれの哲学思想の有機的な連関についても論及されているので、ただ単に時代順に記述を追うのではなく、それぞれの内容的な連関、いわば“ヨコのつながり”にも十分に留意して勉強して頂きたい。

■学習計画のポイント

ページ1～109

ここではまず漢から魏晉にかけての、かなり長い期間にわたる思想史が論述される。曹操と諸葛亮の思想については、やはり韓非子に代表される法家思想がポイントとなるであろう。又、それに続く、いわゆる“竹林の七賢”の思想においては、老子や荘子の道家思想がポイントとなる。いずれも『東洋思想史Ⅰ』において詳述されている重要な哲学思想である。それらについての十分な学習が必要であろう。

ページ111～191

続いて何晏と王弼の哲学思想が取り扱われる。いずれも中国思想史上に名高い論客であり、その言葉や論理は、いささか複雑で分かり難い点もあろうかと思われるが、ポイントは、老子・荘子の道家思想と易哲学である。従って、まずはそれらの哲学思想を明確に押さえ、その上でポイントを押さえながら読み進めば、必ずや、その内容も理解することができるであろう。

■学習上の留意点

既に触れた通り、常に通信教育教材『東洋思想史Ⅰ』を座右に置いて、それを参照しつつ勉強されたい。

■参考文献

テキストの該当箇所をご覧ください。

科目コード	科目名	単位数
0521	日本思想史Ⅰ	4単位

教材コード 000137

教材名 『日本思想論争史』

著者名等 今井 淳・小澤 富夫

■教材の概要

日本人の思想の歴史をみると、神道・仏教・儒教・キリスト教などの諸思想が複雑に交渉し合い、あるときは対立し、またあるときは融合しながら展開している。ある時代の新しい思想と思われるものも、何らかの意味で前時代の思想と関連し、また次代の思想に影響している。こうした日本思想史の流れを考察し、日本人の思惟方法の特色を明らかにするのが本教材のねらいである。具体的な概要と問題については、教材の『序章』の箇所を精読してほしい。

■学習計画のポイント

ページ 22 ～ 118

22 ～ 68 ページ

日本における仏教受容後に発生した思想上の諸問題について、最澄と徳一の対立点、鎌倉新仏教と神仏関係、仏教側の主張する習合論の内容、それに抵抗して成立した諸神道の主張などの思想史的意義を理解すること。

70 ～ 118 ページ

中世における種々の歴史書にあらわれた歴史哲学、すなわち歴史推移の根本原理と諸書の政治理想としての政道論の意義、次に歌論・連歌論・能楽論・茶の湯論において展開された日本人の美的価値論の特色を理解すること。

ページ 120 ～ 379

120 ～ 294 ページ

日本の伝統諸思想とキリスト教の対立点、儒教と仏教の関係、儒教内部の種々の思想論争と国学との関係、武士の在り方をめぐる対立点、中世と関連しての近世文芸論の特色などを整理し、近世諸思想の近代以降に与えた影響の意義を理解すること。

296 ～ 379 ページ

幕末の国家論、明六社に参加した思想家たちが提起した諸問題、第1単位の習合論との関係をふまえての神仏分離と廃仏毀釈論、「国民道徳」とはなにかをめぐる対立点について、現代の思想問題と密接する諸問題の思想史的意義を理解すること。

■学習上の留意点

- ① 各時代の歴史的背景について学習しておくこと。
- ② 各思想の時代的・現代的意義についてまとめること。
- ③ 巻末の主要人名・文献索引を利用すること。

■参考文献

教材巻末の文献目録を参照すること。

科目コード	科目名	単位数
0531	哲学概論	4単位

教材コード 000138

教材名 哲学概論

著者名等 藤平 武雄

■教材の概要

哲学概論を定義することは難しく、概論の著者の数程の定義があると思う。通信教育教材の『哲学概論』は近世哲学の出発から現代哲学までを論述し、東洋哲学と西洋哲学との比較を結びとしている。したがって、近世以降の西洋哲学史の流れが本書の中心をなしており、現代哲学とその前史を学ぶためには格好の教材である。また「哲学と民族性」の章で東西哲学の比較も論じられているので、読者は東洋哲学に目を向ける機会に恵まれるかもしれない。

■学習計画のポイント

ページ 1 ～ 95

39 ～ 45 ページ

エネルギー不滅則、ダーウィンの進化論等の自然科学的思惟の優勢な時代になって、哲学時代が形而上学的思弁哲学から自然科学的哲学へとその方向及び方法を転換した点に注目すること。

75 ～ 79 ページ

新カント派の哲学は、リープマンの「故に我々はカントに復帰せざるべからず」という言葉によって表される様に、カント哲学の再解釈にその出発点がある。マールブルグ学派ではコーエン、西南ドイツ学派ではリッケルトを中心にする。

ページ 96 ～ 224

96 ～ 109 ページ

フォイエルバッハの哲学はヘーゲル批判を出発点としているので、ヘーゲルの汎理主義に対するフォイエルバッハの感性的人間解釈に注目することが大切である。

145 ～ 151 ページ

「実存主義」は広義の哲学であり、芸術、文学等人間の生活全般にかかわっている。本書では4名の実存主義者が論じられているが、1人の思想家を選んで論じた方がまとめやすい。

■学習上の留意点

特になし。

■参考文献

特になし。

科目コード	科目名	単位数
0532	宗教学概論	4単位

教材コード 000139

教材名 宗教学概論

著者名等 奈良 弘元

■教材の概要

個々の宗教流派や宗派、教派などを対象とするのではなく、宗教全般を対象として、その事実を明らかにすることによって、宗教について正確な知識を得る、ということを目指している。歴史的な諸宗教を概観すると、宗教を構成している主たる要素は、思想・行動・集団・体験の四つである。これらの四つの構成要素を考察することによって、宗教についての全体像が明らかとなり、その基礎的知識が得られるものと考えられる。

■学習計画のポイント

ページ 9 ～ 76

「宗教学の立場と分野」の章は、「宗教学」の学問としての性格と特徴とを明らかにすることを目標としている。「宗教の諸類型」の章は、過去から現在にいたる諸宗教について概観するとともに、それらの分類を通して、その類似性と特異性とを理解することを目標とする。

「宗教の構成要素」の章は、「宗教思想の諸相」以降の各章への序章に相当し、「宗教思想の諸相」の章は、信仰の対象としての宗教的実在についての考えかたや、人間観・世界観を考察することによって、宗教的なものの見かた、考えかたを理解する。

ページ 79 ～ 157

「宗教行動」の章は、信仰の表出としての行動形態の理解を目標とし、「宗教集団」の章は宗教集団の特徴、ならびに経済や政治との関係について考察し、宗教の理解を深めることを目標としている。

「宗教体験」の章は、個人の内面で展開される、宗教体験の特徴、宗教体験を通して形成される宗教的人格、などへの理解が目標となる。

「宗教の機能」の章は、宗教と政治・経済・その他の文化とを比較しながら、宗教の果たす役割について考える。

■学習上の留意点

教材を熟読吟味するとともに、その内容を自分の言葉で、正しく説明できるように心がけること。そのためには、具体的な事例を列挙できるように努め、また、説明のための論拠を持つように努めること。あいまいな言葉、意味不明な言葉は、必ず、辞書などで確かめること。全体的に、地道な学習が要求される。

■参考文献

教材の主要参考文献（175 ～ 182 ページ）に示してあるとおりである。

科目コード	科目名	単位数
0533	倫理学概論	4単位

教材コード 000140

教材名 倫理学概論

著者名等 小林 利裕

■教材の概要

倫理学について、従来までの学説を紹介しつつ、体系的な統一論を講述するのが「倫理学概論」である。倫理学に関する根本的原理を考え、その原理を倫理的事実である習俗と人倫の中に適用する。習俗は一般に反論理的性格が強く、人倫（政治と経済が中心）によってそれが克服される。倫理学を狭い道德から解放して、政治倫理や経済倫理などとして考えるわけであるが、さいごに政治倫理・経済倫理と家族倫理との関係を取り扱う。

■学習計画のポイント

ページ 1 ～ 148

1 ～ 76 ページ

倫理学の定義から始め、倫理学研究の基本的立場が講述されている。倫理的事実と主体的自覚の関係、従来までの倫理学の欠陥（倫理的事実を無視している）などが学習の中心になる。

77 ～ 148 ページ

倫理学の根本的原理が講述されている。主体的自覚とヒューマニズムが原理であるが、それに関係して他人と組織の問題を考える。他人を、主体疎外をする他人と、ヒューマニズム実現を補助する他人（組織内他人）とに分ける。

ページ 149 ～ 294

149 ～ 220 ページ

倫理的事実としての習俗が講述されている。習俗をいろいろな点から分類し、それぞれ主体疎外の実態を明らかにする。この上に立って、習俗による主体疎外を克服する方法を考える。

221 ～ 294 ページ

倫理的事実としての人倫が講述されている。政治と経済を中心にして、それぞれ政治倫理や経済倫理を考えるが、もちろん2つは内的に密接に関係している。習俗克服の方法との関係も注意する必要がある。

■学習上の留意点

- ① ヒューマニズム（疎外）と他人（組織）との関係。
- ② 倫理学からみた理想的な政治・経済像。
- ③ 習俗による主体疎外を克服する具体的な方法。

■参考文献

- 『人間の学としての倫理学』（岩波文庫）和辻哲郎著（岩波書店）
 ※『倫理学概論』金子武蔵著（岩波書店）
 ※『実存主義をめぐって』小林利裕著（近代文芸社）

科目コード	科目名	単位数
0571	哲学特殊講義	4単位

教材コード 000345

教材名 哲学特殊講義

著者名等 宮原 琢磨

■教材の概要

本教材はアルノー（1612 - 94）の『真なる観念と偽なる観念』（1683）の全訳（注釈付）と、解説として、拙著『アルノーにおける知のシステム』を収めたものである。本教材は、近代科学成立期の哲学論争を知るうえに必要不可欠なテキストである。なぜならば、本教材は、科学革命期の知識論争でもっとも重要な位置を占め、その後の哲学史の行方を決定したからである。本教材によって、読者はアルノー＝マルブランシュ論争の全容を知る機会を、そしてアルノーの知識論の特質とその意義を知る機会を得るだろう。

■学習計画のポイント

ページ 1 ～ 108

『真なる観念と偽なる観念』はマルブランシュの『真理の探究』（1674 - 5）に対する論駁書である。したがってつねに「論争点は何か」に注意しながら教材を読解しなければならない。学習のポイントは以下のとおりである。

- ① アルノーの方法論を理解すること。
- ② アルノーのマルブランシュ批判の中心点は何か、を理解すること。
- ③ アルノーの知識論の特質を理解すること。
- ④ アルノーの知識論の意義について考えること。

ページ 109 ～ 286

『真なる観念と偽なる観念』の後半部は、マルブランシュの機会原因論の以下の論点が、論争の中心課題となるので、その点についての両者の主張のちがいをしっかり理解することが肝腎である。学習のポイントは以下のとおりである。

- ① マルブランシュのキーワード“叡智的延長”について。
- ② 神の認識について。
- ③ 自己の認識について。
- ④ 他者の認識について。
- ⑤ 知識の起源について。

■学習上の留意点

アルノーの知識論を理解しやすくするための拙著『アルノーにおける知のシステム』を参考資料としてつけ加えた。本教材を「学習計画のポイント」に即して学習する際、拙著を併読しながら読み薦めることが大切である。

■参考文献

『哲学基礎講読』（通信教育教材）

科目コード	科目名	単位数
0575	科学哲学	4単位

教材コード 000142

教材名 科学哲学

著者名等 大江 精三

■教材の概要

哲学を認識論と形而上学の二大部門に分けることは哲学における一般的傾向である。科学時代の現在にあっては、認識論を科学基礎論に、また形而上学を科学的世界に改めるべきであるという意見もあるが、あまり時流にとらわれすぎずに、あくまで人間の認識活動の全体を研究の対象とする立場からまとめられたものである。現代哲学の実存主義・マルクス主義・科学哲学がどのように生じて来たかを理解しながら、今どのように考えるべきかを平易な文章でまとめられている。

■学習計画のポイント

ページ 1 ～ 102

1 ～ 45 ページ

哲学は自然科学との関連なくしては論じられないものである。ニュートンとカント、そしてゲーテとの関係は、近年の自然科学理論観を先取りした観がある。理論の背後で様々な解釈が成立し、科学基礎論が発展することになった。

47 ～ 102 ページ

自然科学との関係で最も緊密な関係を有していたのが、近代哲学の祖としてデカルトとカントである。しかし、両者の考え方は、デカルトが「我思う」という立場にとどまっていたのに対し、カントは理性律法化にまで進めるという違いである。

ページ 103 ～ 222

103 ～ 166 ページ

認識論を英国経験論と大陸合理論、また観念論と実在論というように対立的に考えがちであるが、両者を統一しようとしたカントの認識論は、我々が日常用いる「自然」とは異なった「物自体」という考えをもっている。

167 ～ 222 ページ

カントからヘーゲルに至るドイツ観念論においては理想主義哲学の発展過程でもあった。この認識を研究することは学問領域を考察する上で欠かせないものである。また、これと反対の立場をも理解する必要がある。

■学習上の留意点

各章を熟読してください。各章の結論は最終項目で述べられていますので、良く理解し、自分のことばで書くようにしてください。

■参考文献

※『プロレゴメナ』 カント著（一穂社）

『純粹理性批判』（岩波文庫）カント著（岩波書店）

科目コード	科目名	単位数
0611	史学概論	4単位

教材コード 000144

教材名 史学概論

著者名等 石田 幹之助・肥後 和男

■教材の概要

前半は、史学研究法とは何かについて、「これは歴史を歴史事実そのものの意に取り、それに対する正確な認識を作り上げて行く手続・方法をいふ」として、そのため必要な史料とその批判について解説したものである。

後半は、どちらかといえば哲学的に歴史学研究をのべたもので、歴史とは何か、歴史を知る方法・史料、問題の設定、歴史における時間、場所、歴史における人間、政治史と経済史と文化史、史観などについて説きおよんでいる。

■学習計画のポイント

ページ 1 ～ 98

1 ～ 44 ページ

歴史研究の出発が史料の存在にあることと、その史料がどのように便宜的に分類されているのか、具体的に理解すること。

45 ～ 98 ページ

史料批判の必要性と、それが具体的にどのようにおこなわれるのか理解すること。

ページ 99 ～ 239

99 ～ 158 ページ

歴史とはどのような学問なのか、また研究をはじめる時の問題の設定はどのようにきめられていくかについて理解すること。

159 ～ 239 ページ

歴史を、時間、場所、人間、史観といった観点から理解すること。

■学習上の留意点

- ① 歴史研究上の史料の存在について十分な理解がのぞまれる。
- ② 史料批判はどのようにしておこなわれるのかについて理解すること。
- ③ 歴史という言葉には二つの意味があることと史料の分類。
- ④ 歴史のみかたには今までどんなものがあったのか、その限界は、どんなところに存在するのか。

■参考文献

- ※『歴史をみる眼』堀米庸三著（日本放送出版協会）
- ※『歴史と人間』堀米庸三著（日本放送出版協会）
- ※『史学概論（新版）』林健太郎著（有斐閣）
- ※『史学概論（第2版）』太田秀通著（学生社）
- 『歴史とは何か』（岩波新書）E.H. カーク著（岩波書店）

科目コード	科目名	単位数
0620	日本史概論	4単位
0621	日本史概説	4単位

※同一内容で科目名称が学部によって異なる科目（ii ページ参照）

教材コード 000382

教材名 『概論 日本歴史』

著者名等 佐々木 潤之介 他編

■教材の概要

日本史を古代（含原始）・中世・近世・近代・現代〔1998（平成10）年の小淵恵三内閣の成立まで〕に分けてのべている。1970年代以降、日本史の各分野で研究がすすめられた成果をとりくんだものとなっていてきわめて内容が新しい。しかし現在の大学生が高校時代に日本史を学ばずに入學してくるという状況も考慮に入れた上で日本史概論をいかにあるべきかを考えてできあがったのが本書である。熟読してほしい。

■学習計画のポイント

ページ 1～112

古代から中世までの内容である。中世は院政の成立から始めている。柱が3つあって、1が院政の成立から鎌倉時代、2が室町から戦国時代、3が中世の文化を前期と後期にわけてのべている。

317ページ以下にかなり詳しい天皇家系図・藤原氏系図・清和源氏系図・桓武平氏系図がのっているので本文を読みながら参考にしてほしい。

ページ 113～309

近世から近代・現代までの内容である。近世は3つからなり、1が幕藩体制の確立、2が動揺と解体、3が文化を前期・中期・後期とわけて説明している。中世と同じ構成であるがこの構成は理解しやすいのではないと思う。近代と現代は両方とも3つの柱がたてられていて、特に文化を独立してのべることはない。

■学習上の留意点

大学に入學したばかりの学生でも読めるようにかなりの事物や人名に「ふりがな」が付されているので読みやすいと思うが、内容がこみいってわかりにくいと感じる時は、高校時代使用した日本史の教科書の内容のページを開いてみてほしい。又日本史辞典もひんぱんに利用することが肝心である。あせらずにじっくり読むことをおすすめしたい。

■参考文献

本書 311～316 ページに掲載されている「日本史参考文献」を利用してほしい。

科目コード	科目名	単位数
0623	東洋史概説	4単位
0627	東洋史概論	4単位

※同一内容で科目名称が学部によって異なる科目（ii ページ参照）

教材コード 000146

教材名 東洋史概説／東洋史概論

著者名等 丹 喬二・松村 潤・小島 淑男

■教材の概要

中国文明の成立から 20 世紀はじめ国民党による中国統一までの中国史を中心とした東洋史をあつかう。新石器時代のはじめ仰韶文化から、20 世紀はじめまで、中国では王朝の興亡が繰り返され、また周辺諸国や諸民族との抗争や文化交流が展開されてきた。それらを概観するとともに、中国史上の時代区分問題にもふれる。中国の古代から近代までの政治史のみならず、社会経済史にも、「生産がどのように行われてきたか」に留意して歴史の展開が述べられている。

■学習計画のポイント

ページ 1 ～ 130

殷周時代では農業経営は邑を単位として行われていたが、春秋戦国時代に鉄製農具が発明され、また牛耕の普及により家族単位で農業生産ができるようになった。秦漢時代は豪族社会といわれるが、魏で行われた九品中正が南北朝時代にも施行され、豪族の門閥貴族化を促した。唐が滅び五代十国を経て、貴族層は没落し、かわって新興地主層が台頭し、地主は佃戸と呼ばれる小作人を使い生産に従事させた。宋で成立した君主独裁体制は明にいたり確立した。

ページ 131 ～ 254

アジア諸地域は、17 世紀以降、ヨーロッパ諸国の侵略により、オスマン帝国はその勢力下におかれ、インド・東南アジアは植民地とされ、さらに中国は半植民地となった。ヨーロッパ諸国の勢力下、植民地、半植民地となったアジア諸地域において、抵抗運動、民族の独立や主権を回復させる運動が展開された。中国では義和団運動後、結ばれた辛丑和約によって半植民地化が決定的となった。こうした中国には立憲運動と革命運動という 2 つの潮流があったが、孫文等の革命運動が勢力を得、辛亥革命により清朝を倒して中華民国を成立させた。

■学習上の留意点

基本的事実をしっかりと覚え、概念や歴史用語について正しく把握したい。当該社会がどのような社会で、それがどのような社会に移行していったのかを念頭において教材の学習を行いたい。

■参考文献

巻末に付されている参考文献のほかに、以下のものがあります。

※『アジアの歴史と文化 1 ～ 5』竺沙雅章監修（同朋舎出版）

『中国近現代史』（岩波新書）小島晋治他著（岩波書店）

※『中国現代史（新版）』（有斐閣選書）中嶋嶺雄編著（有斐閣）

『データでみる中国近代史』（有斐閣選書）狭間直樹編著（有斐閣）

『中国史世界歴史大系 2・3・4・5』松丸他編（山川出版社）

科目コード	科目名	単位数
0624	西洋史概説	4単位
0628	西洋史概論	4単位

※同一内容で科目名称が学部によって異なる科目（ii ページ参照）

教材コード 000147

教材名 西洋史概説／西洋史概論

著者名等 坂口 明・赤澤 計真・長沼 宗昭・中村 英勝・林 義勝・松浦 義弘・岸田 達也

■教材の概要

この教材は、古代ギリシアから東西冷戦末期までの広い範囲を扱っている。概説であるため、個々の問題をそれほど深く掘り下げて論じてはいない。むしろ歴史の流れに記述の重点が置かれている。個々の事件にせよ、歴史的な概念にせよ、その背景となるこうした歴史の流れを考えて理解してほしい。

■学習計画のポイント

ページ 1 ～ 188

1 ～ 94 ページ

ギリシアにおけるポリス社会の成立とその変質、ローマ共和政から帝政へ、さらに帝政末期に至る政治的社会的変化、古代末期から中世に至る政治的社会的変化に留意しながら、個々の事件や概念を理解する。

95 ～ 188 ページ

中世後期から近代の絶対主義時代への移行という背景から、個々の事件や概念を理解する。

ページ 189 ～ 348

189 ～ 266 ページ

市民の台頭、工業化、ナショナリズムなどの展開に留意しながら、個々の事件や概念を理解する。

267 ～ 348 ページ

帝国主義によるヨーロッパ・アメリカの世界支配の背景、過程、結果を、ヨーロッパ・アメリカ内の国際関係や被支配地域側の対応などから理解する。また、第2次世界大戦後のアジア・アフリカの自立化の過程を、民族解放運動・東西の冷戦の中で把握する。冷戦後の世界については、この教材の中ではふれられていないので、各自参考文献を読んで理解しておこう。

■学習上の留意点

上記「学習計画のポイント」と同じ。

■参考文献

教材の各章末に付されている参考文献。

科目コード	科目名	単位数
0625	外国史	4単位
0626	外国史概説	4単位

※同一内容で科目名称が学部によって異なる科目（ii ページ参照）

教材コード 000148

教材名 外国史／外国史概説

著者名等 長沼 宗昭・中村 英勝・林 義勝・松浦 義弘・岸田 達也・小島 淑男

■教材の概要

歴史の理解のためには、まず何よりも基本的事実や概念を正しく把握しなければならない。本教材の西洋の部分では、市民社会の成立以降のヨーロッパを中心とした歴史が扱われている。ここで扱われた時代は、ヨーロッパが内部に矛盾をはらみながら、その支配を世界のすみずみに拡大していった時代であり、また、アジア諸地域ではヨーロッパの侵略がすすみ、その一方で民族の解放がすすむ時代でもあった。それは現代社会の諸問題が形づくられた時代でもある。本教材で取り扱われた事項と現代との関連に常に注意を払いながら、歴史的思考を養わなければならない。

■学習計画のポイント

ページ 1 ～ 160

ブルジョア革命がそれまでの社会をどのように変革したか、また工業化との進展がヨーロッパ社会の中にどのような問題をもたらしことになったか、などに注意しながら、諸事象の関連を考える。

ヨーロッパの世界支配が、何を背景に、どのように進化したか、それがヨーロッパ内部や被支配地域で何を生み出したか、などに注意を払い、複雑な国際関係の展開を理解する。

ページ 161 ～ 284

アジア諸地域は、17 世紀以降、ヨーロッパ諸国の侵略により、オスマン帝国はその勢力下におかれ、インド・東南アジアは植民地とされ、さらに中国は半植民地となった。ヨーロッパ諸国の勢力下、植民地、半植民地となったアジア諸地域において、抵抗運動、民族の独立や主権を回復させる運動が展開された。中国では義和団運動後、結ばれた辛丑和約によって半植民地化が決定的となった。こうした中国には立憲運動と革命運動という 2 つの潮流があったが、孫文等の革命運動が勢力を得、辛亥革命により清朝を倒して中華民国を成立させた。

■学習上の留意点

上記「学習計画のポイント」に同じ。

■参考文献

【西洋】各章末に付されている参考文献。

【東洋】巻末に付されている参考文献のほかに、以下のものがあります。

『現代中国の歴史』久保 亨等編（東京大学出版会）

『シリーズ中国近現代史 近代国家への模索』川島 真（岩波新書）

科目コード	科目名	単位数
0651	考古学特講Ⅰ	4単位

教材コード 000149

教材名 考古学特講Ⅰ

著者名等 竹石 健二・澤田 大多郎・野中 和夫

■教材の概要

前半には、縄文式時代初期集落の諸問題についての考察、縄文式時代の専門工人集団の出現と交易について考察、縄文式時代の貯蔵形態の一つであるフラスコ形土坑についての考察、さらに、縄文式時代の土坑の性格についての考察を収めている。

後半には、弥生式時代の稲作以外の生産活動についての考察、弥生式時代の南関東における方形周溝墓の成立についての考察、多摩川流域における古墳の成立についての考察、さらに、所謂変則的敵古墳の諸問題についての考察を収めている。

■学習計画のポイント

ページ1～176

- ① 縄文式時代熱糸文期集落の諸問題についての諸先学の見解の紹介と筆者の考察を内容としているが、資料を収集して（自分の出身地で）検討してみるとよい。
- ② 専門工人集団の出現と交易について峠遺跡の事例として考察しているが、他の事例によって検証してみるとよい。
- ③ 貯蔵形態は、フラスコ形土坑に限定されるわけではなく、他の貯蔵形態について各自資料収集の上、調査研究するとよい。
- ④ 土坑の機能はほぼ陥し穴と決定してよいが、その方法については今後の課題であり、各自検討してみるとよい。

ページ178～358

- ① 稲作以外の生産活動について石皿と磨石の検討から、南関東地域を事例として、その存在を明らかにしたものであるが、各自で他地域で資料を収集して検証してみるとよい。
- ② 方形周溝墓がどのようにして南関東に伝播し、古墳の成立にどのように関係していくのか。また、弥生式時代の墓制の中でどのように位置づけられるのか、解明することは多い。
- ③ 各地域の各河川ごとに前方後円墳の成立の時期を明らかにすることによって各地域と大和政権の関係を明確にする。
- ④ 変則的古墳については普通の古墳の中でどのような位置づけがなされるか等々、今後に残された課題は多い。

■学習上の留意点

『考古学特講Ⅰ』には総数8編（縄文式時代4編、弥生式時代2編、古墳時代2編）の研究論文が収載されている。これを読むことによって、研究方法がどのようなものかをよく把握し、自らも資料を収集して、各地のあり方を検証してみるとよい。

■参考文献

各論文の最後に記載してある註（注）がこれにあたるが『考古学入門』（通信教育教材）の巻末に一覧表にしてあるものも参照するとよい。また、各地で刊行されている発掘調査報告書は資料を収集するうえで必要である。

科目コード	科 目 名	単位数
0661	日本史特講Ⅰ	4単位

教材コード 000151

教 材 名 日本史特講Ⅰ

著 者 名 等 中村 順昭・高村 隆・横山 則孝・楠家 重敏

■教材の概要

本テキストは、日本史の古代・中世・近世・近現代の各時代ごとに、4名の執筆者がそれぞれの専門研究分野についてまとめた論文12本を収録した、いわば「論文集」の形態となっている。これは、日本史特講（特殊講義）という講座が、概説科目等とは違い、多くの場合、その講座を担当する教員が日頃とり組んでいる研究テーマについて、より専門的な内容にふみ込んで行われていることにかんがみ、そうした特講科目の特徴をテキストに反映させようと考えたことによる。

■学習計画のポイント

学習計画のポイントについては、各編（前半は1・2編（3～187ページ）、後半は3・4編（191～358ページ））の最後に「学習指導書」が付されているので、その部分を参照されたい。ただし、本テキストは、上記「教材の概要」で述べておいたように、古代～近現代の各時代について、個別テーマを専門的に検討・分析している論文によって構成されているわけであるから、それらの内容を十分に理解するためには、あらかじめ日本史の概説書類（容易に入手できるものが数多く市販されているが、通信教育教材では、『歴史学』・『日本史概説』・『日本史特講Ⅱ』が参考となる）で、各時代に関する基礎的知識を学習し、得ておくことが必要となろう。

■学習上の留意点

各編末の「学習指導書」を参照。

本テキストは論文集であり、学習に際し、難解に感じる者も多いと思うが、卒業論文作成のためには、各自が選んだテーマに関する参考文献として、数多くの専門書・論文を読まなければならないわけであるから、その時にそなえて、専門論文を読み込む力を身に付けておくことが求められよう。また、本テキスト収録論文について、それらの内容・論旨の理解に努めるとともに、論文の形式（文体、史料引用、注記他）にも留意しつつ学習されたい。

■参考文献

各編末の「学習指導書」及び、各論文の「注記」を参照。

科目コード	科目名	単位数
0662	日本史特講Ⅱ	4単位

教材コード 000152

教材名 『近世日本の展開』

著者名等 蔵並 省自

■教材の概要

本書は「概説」と「各説」の二つの部分より成っている。「概説」の部分は、第1・2単位に相当し、ここでは本書の対象である日本近世の成立期から終末期までの歴史的推移を総合的に叙述し、近世の時代像を全体的に把握できるように構成されている。残る第3・4単位が「各説」の部分であり、ここでは近世の政治・経済・文化の各分野にわたる問題をとりえ、より専門的な考察を加えた論稿がおさめられている。

■学習計画のポイント

ページ1～241

1～132ページ

まず、「近世」という時代が日本史上の流れのなかでどのような位置付けがなされているかを把握すること。次に、織・豊政権から徳川幕府の歴史的推移をふまえ、近世幕藩制社会の特質とは何かを理解すればよい。

133～241ページ

幕藩制社会を支えた諸制度や思想の内容とその特質を学ぶと共に、この社会の基礎となった農民について、その生活の実態や領主支配のあり方を知ること。また、確立した幕藩制社会がどのような過程を経て変質・解体していったかを学び取る。

ページ242～381

243～293ページ

戦国大名後北条氏の領国経営について、特にその家臣団の成立・編成過程と、農民支配の具体的施策に留意する。家光政権については、寛永期の幕・藩関係をふまえた上で、家光期幕政の特質－将軍権力、幕府職制の確立過程等－を把握する。

295～381ページ

加賀藩前田氏や老中松平定信の改革政治、および海保青陵の思想についての具体的内容を学ぶことを通じて、幕藩領主や学者が封建社会の変貌・解体にいかに対処しようとしたかを知り、さらに社会の変化の中で台頭する町人の活躍を化政文化を通じ学び取る。

■学習上の留意点

各分冊に対応するレポート課題に真剣に取り組み、不明な語句や記述内容については必ず辞書等を利用して確認しておくこと。本文中に引用されている史料にも目を通し、その内容を理解しておくように（各分冊共通）。

■参考文献

※『岩波講座 日本歴史9～14巻・別巻1』（新・旧版）（岩波書店）

※『講座日本近世史1巻～9巻』（有斐閣）

『国史大辞典1～15巻』国史大辞典編集委員会（吉川弘文館）。

なお、本書本文中に「割注」等のかたちで紹介されている文献にも出来るだけ目を通すこと（各分冊共通）。

科目コード	科目名	単位数
0665	東洋史特講Ⅰ	4単位

教材コード 000153

教材名 東洋史特講Ⅰ

著者名等 丹 喬二・加藤 直人・片倉 芳和・高綱 博文

■教材の概要

本書は、東洋史に関する専門的な研究論文から構成されたものである。本書の学習を通じて高度な内容の学術論文に直接ふれ、それを読解する力を養うことを目的とする。本書は、第一編「唐宋の変革」と宋代封建社会の構造、第二編入関前清朝の諸史料について、第三編近代中国革命家宋教仁に関する研究、第四編孫文の対外戦略に関する研究を内容とする。各編の解説は学習の手引であり、はじめに熟読すること。

■学習計画のポイント

ページ 1 ～ 164

1 ～ 102 ページ (丹 喬二)

第一章は、「宋代社会はどのような性格の社会か」という問題に対し、学説史の検討を行ったもので、第二章は、それから導き出された「宋代封建社会」がういう仕組みで成り立っているのかを検討し、第三章は、どのような宋代社会が、どのように「唐宋の改革」を経て成立したかをみる。

103 ～ 164 ページ (加藤直人)

中国最後の帝国である清朝が、いまだ中国本土に進出する以前の姿を知る諸史料について解説したものである。その基本史料である『満文老档』、また、そのオリジナルである「満文原档」、そして太祖、太宗の「実録」、また、あらたに発見された「逃人档」等の文書資料について検討を加えている。

ページ 165 ～ 281

165 ～ 226 ページ (片倉芳和)

伝統教育を受け秀才となった宋教仁は、清朝打倒の革命運動に参加し、日本に亡命して近代政治経済思想を受容した。清末中国知識人の行動と思想を理解する。辛亥革命に成功し現実政治にどう活動したか、志半ばにして暗殺され中国の議会は成功しない。宋教仁の描いた理想と現実を研究してほしい。

227 ～ 281 ページ (高綱博文)

帝国主義時代の列強のパワー・ポリティックスに対処しようとした孫文の対外戦略の内在的論理とその限界性をよく理解すること。また孫文の対外戦略の一つの実践としての日中ソ提携論とワシントン体制との関連を把握すること。

■学習上の留意点

各論文を学習する際には、第一に解説を熟読して研究史上の位置をよく理解し、第二に論文の課題を明確に把握した上で、註記を参照しながら論証の展開課程を詳細にたどる。第三にその論文の明らかにした点を認識する。以上のことをノートに要点をまとめながら行うことが望ましい。

■参考文献

各論文の註にあげられた研究文献を参照すること。

科目コード	科目名	単位数
0666	東洋史特講Ⅱ	4単位

教材コード 000485

教材名 『上海 都市生活の現代史』

著者名等 岩間 一弘・金野 純・朱 珉・高綱 博文

■教材の概要

本書は辛亥革命以降の上海の歴史を都市生活の視点から概説したものである。上海の歴史は中華人民共和国の成立を境に二つに分けられる。前半は開港後、近代上海が西洋文明と接触するなかで商工業や都市社会を発展させ、都市生活を成熟させた時期である。後半は人民共和国成立後、中国を取り巻く国際関係の厳しさや内政における深刻な変動が上海の都市生活者たちを翻弄していく歴史である。本書では以上の大枠に沿って、都市生活者を取り巻く政治経済、社会、文化、風俗、日常生活およびその歴史的变化をさまざまな側面から取り上げ、興味深い考察がなされている。

■学習計画のポイント

ページ 1 ～ 104

1 ～ 71 ページ

西洋人が商業的利益の観点から租界における中国人の居住や中国資本の活動を許し、外国商社のみならず大小の多くの中国企業・商店が活発な経済活動を展開した結果、上海には企業家、地主、ホワイトカラー、熟練労働者、主婦、学生等からなる上・中流階級が形成され、大衆消費文化、大衆娯楽、マスメディアなどの都市発展がみられた点に着目し、学習を進めること。

73 ～ 104 ページ

日中戦争期と日本敗戦後における上海都市社会の変化が考察の対象となる。日中戦争期にはいると上海は租界を除いて日本の占領区となったが、租界を中心に一貫して重慶の国民党、延安の共産党と結びつきを保ち、抗日の拠点となった点について理解を深めたい。

ページ 105 ～ 304

105 ～ 179 ページ

アメリカ、ソ連との経済関係の断絶や朝鮮戦争に起因する国内政治の引き締め、社会主義化のスピードアップによって都市生活は急速に再編され、「単位」のもとで人々は厳しく管理された。経済の社会主義改造と関係した「三反」「五反」運動、公私合営化、大躍進運動は厳しい政治運動となり、文化大革命の激動へと収斂したことを理解したい。

181 ～ 304 ページ

1980年代の上海は、「改革」「開放」政策にも係わらず、「経済特区」と比べて後進性が顕著であった。外資の導入や浦東開発をテコに上海が高度経済成長を始めるのは92年以降であること、その後は不動産バブル、中流階級の拡大、豊かな都市生活の実現など「社会主義市場経済」の成果が大きいことに着眼したい。

■学習上の留意点

- ① 大部の書であるので、各章冒頭の「概論」であらかじめ当該章の歴史の見取り図を得て各節の説明をよむこと。
- ② 近代は異文化との接触を不可避とし、かつその上に多様性に満ちた新しい文化と時代を創り上げていくという歴史的視点を見失わないこと。
- ③ 上海の都市発展はこの100年で大きな変化を遂げてきたが、その変化が連続性をもつことにも留意すること。

■参考文献

『上海—多国籍都市の百年』榎本泰子（中公新書）

『現代中国文化探訪—四つの都市の物語』藤井省三（岩波新書）

その他、教材「読書案内」（307～310ページ）にあげられた諸文献

科目コード	科目名	単位数
0669	西洋史特講Ⅰ	4単位

教材コード 000156

教材名 西洋史特講Ⅰ

著者名等 坂口 明・藤井 潤・土屋 好古・藤井 信行

■教材の概要

本書は、西洋史に関する専門的な研究論文から構成されたものである。本書の学習を通じて高度な内容の学術論文に直接ふれ、それを読解する力を養うことを目的とする。本書は、第一編ローマ帝政期の社会、第二編トーマス・ミュンツァーの思想、第三編帝政期ロシアの社会と労働者、第四編ミュンヘン協定（1938年）とイギリス外交政策を内容とする。各編の解説は学習の手引きであり、はじめに熟読すること。

■学習計画のポイント

ページ1～119

1～64ページ（坂口 明）

ローマ帝政期の社会について、一方ではそれを根底において支えていた農民の状況を、他方では、都市における富裕者の社会生活への寄与を、具体的なイメージとして知ることがポイントである。同時に、西洋史の論文における問題の立て方、論証の進め方、テーマの展開のしかた等についても注意を払って学習してもらいたい。

65～119ページ（藤井 潤）

宗教改革運動の多様な流れの中でミュンツァーがいかに位置づけられるのかを考える。それには、ミュンツァーの思想と実践を他の思想や実践（ルター、ツヴィングリ、市民、農民、再洗礼派等）との共通点、相違点、影響関係に留意しながら理解する必要がある。

ページ121～236

121～177ページ（土屋好古）

19世紀末～20世紀初頭のロシア社会のなかで、労働者とはいかなる存在であったのか、彼らはいかに生き、行動していたのかを考えることがポイントである。また、議論の内容が史料やこれまでの研究成果にひとつひとつ根拠づけられていることにも注意を払ってもらいたい。

179～236ページ（藤井信行）

研究史の考察を通して、「ミュンヘン協定」が当時のイギリスの国民的政策（ナショナル・ポリシー）の現れであったことを理解することが、まずポイントです。次にチェンバレンの外交政策が、19世紀の伝統の延長線上にあることを理解することです。

■学習上の留意点

各論文を学習する際には、第一に解説を熟読し研究史上の位置をよく理解し、第二に論文の課題を明確に把握した上で、註記を参照しながら論証の展開課程を詳細にたどる。第三にその論文の明らかにした点を確認する。以上のことをノートに要点をまとめながら行うことが望ましい。

■参考文献

各論文の註にあげられた研究文献を参照すること。

科目コード	科目名	単位数
0674	古文書学	4単位

教材コード 000502

教材名 『新版 古文書学入門』

著者名等 佐藤 進一

■教材の概要

本書は古文書学の入門書として定評がある名著で、版を重ね今日に至っている。

①古文書とは何か、②古文書の種類、③古文書の様式論など、その詳細が章ごとにきめ細かく整理されており、初学者にとって大いに役立つと確信する。

■学習計画のポイント

ページ1～118

- ① 古文書の意味を含め、その機能、相伝関係について整理。
- ② 古文書の材質やその種類についての概容。
- ③ 古文書の様式論について…特に公式様文書について整理。
- ④ 古文書の様式論について…特に公家様文書について整理①（宣旨、官宣旨、庁宣など）。
- ⑤ 古文書の様式論について…特に公家様文書について整理②（綸旨、御教書）。

ページ118～284

- ⑥ 古文書の様式論について…特に武家様文書について整理①（下文、下知状など）。
- ⑦ 古文書の様式論について…特に武家様文書について整理②（御教書、奉書、直状など）。
- ⑧ 起請文・荘園文書について。
- ⑨ 軍忠状について。
- ⑩ 讓状について。

■学習上の留意点

古文書の攻略法はともかく多くの実物（写真版）に当たって、文字の配列及びくずし字に慣れ親しむことである。さらに古文書固有の表現や慣用句についても、しっかり身につけることが望まれる。

■参考文献

『古文書入門ハンドブック』飯倉晴武著（吉川弘文館）

その他、教材にあげられた諸文献

科目コード	科目名	単位数
0679	考古学概説	4単位

教材コード 000158

教材名 考古学概説

著者名等 竹石 健二・野中 和夫・澤田 大多郎

■教材の概要

日本の旧石器時代・縄文式時代・弥生式時代における時期区分・住居の種類と集落・墓の集類と葬制とその意味・生産活動（狩猟・漁撈・採集・稲作など）・習俗（土偶・石棒・抜歯・ト骨など）などについて概説すると共に、古墳時代における時期区分・前方後円墳の成立・古墳の種類とその意味・古墳立地の変遷とその意味・前方後円墳の形態変遷とその意味・古墳の外部施設（埴輪など）・遺骸埋葬施設の種類・副葬品の意味・住居と集落などについて概説している。

■学習計画のポイント

ページ 1 ～ 151

前半は、旧石器時代と縄文式時代の社会・経済・文化について概説している。旧石器時代では、石器の種類と時期的変遷、社会構造のあり方などについて理解させ、縄文式時代では、土器の出現とその時期、時期区分と土器型式の変遷、住居と集落のあり方、葬制の種類とあり方の時期的変遷、生産活動（農耕・狩猟・漁撈・採集など）と交易、土器製塩と大規模貝塚の形成の意味、習俗の実態とその意味などについて理解させるように論述している。

ページ 153 ～ 366

後半は、弥生式時代と古墳時代の政治・社会・経済・文化について概説している。弥生式時代では、稲作農耕・狩猟・漁撈・採集について、鉄製品と青銅製品の種類と意味（舶載品と製品の問題を含む）、住居と集落のあり方、習俗などについて理解させ、古墳時代では、前方後円墳の成立と大和政権との関係、前方後円墳の形態変遷とその理由、古墳の立地の変遷とその理由、古墳の種類とその意味、内部主体の構造の種類とその意味、古墳の外表施設の種類とその理由、副葬品の種類とその意味、群集墳の成立と消滅の理由、首長墓の消滅とその意味などについて理解させるように記述している。

■学習上の留意点

各地の発掘調査団あるいは教育委員会などで刊行している発掘報告書などを参照するとともに、各地の考古博物館の展示遺物を普段から見学する習慣を身につけておくことにより理解が深まる。

■参考文献

『考古学入門』（通信教育教材）の巻末に多数掲載してあるので参照されたい。